

# 大日ノ木遺跡

ふるさと街道整備事業（殿城地区）施工に伴う  
発掘調査報告書

2002. 3

上　　田　　市  
上田市教育委員会

# 大日ノ木遺跡

ふるさと街道整備事業（殿城地区）施工に伴う  
発掘調査報告書

2002. 3

上　　田　　市  
上田市教育委員会

## 序

上田は、長野県の東に位置し、古くから東信濃の中心地として栄えてきました。古代においては、信濃国分寺が創建されており、さらに信濃国府も置かれていたと考えられています。中世においては、後に信州の学海と呼ばれるほどの学問の中心地となり、鎌倉時代には信濃国の守護所が置かれていたと考えられています。近世においても、上田城を中心とした城下町が繁栄していました。上田は、この様に古代から現代に至るまで、地域の政治・経済・文化を担ってきました。その軌跡を知る手がかりは、市内に残る有形文化財・無形文化財及び埋蔵文化財によるところが大きいと思われます。

このたび、「ふるさと街道整備事業（殿城地区）」の施行箇所に埋蔵文化財が存在することが判明した為、工事施工に先立ち緊急発掘調査を行いました。調査の結果、上田に入々が住み始めた頃である縄文時代早期や稻作が伝わった頃の晩期の土器・石器が出土し、上田の源のひとつを知ることができました。また、弥生時代から古墳時代にかけては堅穴住居が確認され、当時の生活景観を僅かながらも知ることができました。

近年、様々な開発に伴って発掘調査が行われていますが、そのほとんどが破壊を前提とした「記録保存」のための発掘調査であり、残念ながら調査後姿を消してしまうのが現実です。それ故、現在及び未来へ向けてできる限りの記録を残しておくことが、私どもの責務であると確信しております。

最後になりましたが、発掘調査から整理作業・報告書刊行に至るまで深い御理解と御協力をいただきました関係諸機関、連日熱心に調査に参加してくださった方々、関係研究者の皆様に対して心から敬意と感謝を表する次第であります。

平成14年3月

上田市教育委員会  
教育長 我妻忠夫

## 例　言

- 1 本書は、長野県上田市大字芳田字山田における大日ノ木遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、ふるさと街道整備事業（殷城地区）の実施に先立ち実施した。
- 3 調査は、上田市（上田市教育委員会生涯学習課）が直営で実施した。
- 4 調査は、発掘調査から遺物整理・報告書刊行まで含めて2001年度（平成13年度）に実施した。
- 5 遺構の実測は尾見智志・鹿島すみ江が行い、一部を備こうそくに委託した。トレースは鹿島すみ江が行った。
- 6 遺物整理・復元作業は鹿島すみ江・甲田五夫・高桑豊治・村田宣子が行った。
- 7 遺物の実測は尾見智志が行った。拓本は鹿島すみ江・村田宣子が行った。トレースは鹿島すみ江が行った。
- 8 本文の執筆は尾見智志が行った。遺構・遺物の観察も尾見が行った。
- 9 版組みは尾見智志・鹿島すみ江が行った。
- 10 遺構・遺物の写真撮影は尾見智志が行った。
- 11 調査に係る基準点測量は備こうそくに委託した。
- 12 調査に係る資料は上田市立信濃國分寺資料館に保管してある。
- 13 本書の編集刊行は事務局（上田市教育委員会生涯学習課）が行った。
- 14 本書が刊行されるまでには、多くの方々や諸機関のご理解・ご協力を賜った。以下、ご芳名を記して深く感謝の意を表したい。（順不同・敬称略）  
長野県教育委員会文化財生涯学習課・上田市役所土木課・川崎保・廣瀬昭弘・百瀬長秀・綿田弘実・柳澤亮
- 15 本調査に係る事務局の体制は次のとおりである。

教育長	我妻 忠夫
教育次長	内藤 政則
生涯学習課長	塩野崎 利英
文化財係長	細川 修
文化財係	中沢徳士・尾見智志（担当）・塩崎幸夫・久保田敦子
- 16 発掘調査・整理作業に参加・協力していただいた方々（順不同・敬称略）  
鹿島すみ江・甲田五夫・佐野和男・高桑豊治・村田宣子・柳沢栄治

## < 目 次 >

### 第一章 調査の経過

第一節 調査に至る経過	1
第二節 発掘調査の経過	1
第三節 調査日誌（抄）	1

### 第二章 遺跡の環境

第一節 地理的環境	2
第二節 歴史的環境	2

### 第三章 遺跡の調査

第一節 遺構	7
第二節 遺物	11
遺物観察表	25
第三節 まとめ	35

報告書抄録	39
-------	----

写真	40
----	----

## < 凡 例 >

### 【遺構】

- 各遺構の略称は次のとおりである。  
S A…柵列 S B…竪穴住居・竪穴状遺構 S T…掘立柱建物 S D…溝状遺構 S K…土坑
- 遺構実測図は原則として原図1/20、縮尺1/3である。
- 遺構が時代の新しい遺構、あるいは擾乱等によって破壊を受けプランが明確でない場合は古い遺構を破線で示した。
- 遺構の主軸方向は、国家座標の北とのなす角度で示した。
- 焼土は網点のスクリーンで示した。
- 炭化物の範囲は斜線のスクリーンで示した。
- 遺構写真図版の縮小は任意である。

【遺物】

- 1 土器は縮尺1/3を原則とした。拓本は1/2を原則とした。石器等は1/2を原則とした。例外はスケールで示した。
- 2 土器の実測方法は4分割法を用い、右側1/2に断面及び内面を左側1/2に外面を記録した。
- 3 赤色処理のある遺物は網点スクリーントーン(20%)で示した。
- 4 黒色処理のある遺物は網点スクリーントーン(40%)で示した。
- 5 胎土に纖維が混入している場合は断面に斜線スクリーントーンで示した。
- 6 須恵器については断面を黒く塗りつぶした。
- 7 遺物番号は実測図番号及び写真番号と一致している。
- 8 遺物写真図版の縮小は任意である。

【観察表】

- 1 敷穴住居の主軸方向は原則として北を基準としている。
  - 2 遺物観察表の遺物番号は図版の遺物番号と遺構観察表の出土遺物番号と対応する。
- (縦文)

N o.	出土遺構	時 期	A器種 B部位 C調整施文技法	a 色調 b胎土 c焼成	備考

(弥生後期~)

N o.	出土遺構	A器種 B器形 C文様 D製作技法の特徴	a 色調 b胎土 c焼成	部位

- 3 土層及び出土土器の色調は、農林省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修「新版標準土色帖」1997年度版を使用した。
- 4 石材については尾見智志が鑑定した。

# 第一章 調査の経過

## 第一節 調査に至る経過

上田市役所土木課が実施するふるさと街道整備事業（殿城地区）の施工箇所に周知の遺跡が存在することは、平成5年から平成7年にかけて行われた上信越自動車道建設に伴う発掘調査により予想されていた。その為、平成12年度に保護協議を実施して平成13年度に発掘調査を実施することとした。

本調査に係る整理作業・報告書作成作業は総事業費6,740,000円にて行われた。現場作業は、平成13年10月22日より平成13年12月3日まで行われた。そして、平成14年3月25日には本書を刊行して調査を終了した。

## 第二節 発掘調査の経過

大日ノ木遺跡は、大字芳田字山田に所在している。平成5年から平成7年にかけて実施された上信越自動車道建設に伴う長野県埋蔵文化財センターが行った発掘調査により、隣接する当該地区にも遺跡が広がっていることが予想された。発掘調査は、平成13年10月22日より始まった。調査地区内は、検出面までを重機により土砂を取り除いた。調査地区はほぼ南北に細長く、廃土は重機により背後へと送っていかざるを得なかった。北側部分の畑地区は岩が多くため表土の土砂を取り除く際には検出面が荒れないように注意が必要であった。南側部分の水田地区は一段低くかなり削平されている印象があった。また、調査にあたって廃土置き場の確保に周辺の水田等を使用させていただいた。その為、測量終了後に埋め戻し作業を行う必要が生じた。調査は、順調に進み平成13年12月3日には撤収することができた。

## 第三節 調査日誌（抄）

### 2001年（平成13年）

- 10月22日 調査着手、表土剥ぎ開始
- 10月29日 遺構検出作業開始
- 11月 7日 遺構掘り下げ開始
- 11月 9日 遺構実測開始
- 11月26日 航空測量
- 11月27日 埋め戻し作業開始
- 12月 3日 現場撤収
- 12月 4日 整理作業開始

### 2002年（平成14年）

- 3月21日 整理作業を終了・報告書刊行

## 第二章 遺跡の環境

### 第一節 地理的環境

上田盆地は、千曲川中流域で河川の勾配もきつい地域に属する。上田市のほぼ中央を流れるこの千曲川を境として右岸を総称して川東地方とし左岸を川西地方と呼んでいる。この川東地方は、北方を第三系の太郎山山地、東方を第四系の烏帽子岳火山西南麓に囲まれた地域で、真田方面から千曲川に向かって流下している神川によりさらに東西に分けられる。

この地域の平坦面には虚空藏山面・染屋面・上田城面などがあり、さらに、千曲川及び神川によって幾つかの河岸段丘が形成されている。虚空藏山面は、太郎山山麓の斜面を形成している。この面を形成する虚空藏層は烏帽子岳火山噴出の溶岩、火碎流堆積物と礫層から構成されている。上田城面は火山性泥流堆積物である上田泥流堆積物により形成されている。これに対応する平坦面は神川左岸では林之郷・青木面と呼ばれている。染屋面は、礫や砂により形成された染屋層からなり、広大な神科台地（染屋台地）を形成している。これに対応する平坦面は、神川左岸では吉田面とも呼ばれ、その東縁部には烏帽子岳西南山麓を流下する行沢川・瀬沢川などの河川による押出扇状地が発達している。大日ノ木遺跡は、この瀬沢川と行沢川により形成された扇状地の扇頂部に位置している。

大日ノ木遺跡では、殿城火山灰流堆積物とみられる火山灰層の堆積が認められ、基本土層は耕作土である表土及び押出による火山灰質壤土が堆積しており、その土層のなかに黒茶褐色の落ち込みとして遺構が存在していた。その為、遺構検出面はほとんど形成されていなかった。（第4図）

#### <参考文献>

上田小県誌刊行会「上田小県誌（第四卷自然編）」1963

上田市立博物館「郷土の地誌 上田盆地」1979

信州理科教育研究会「大地は語る」1994

長野県埋蔵文化財センター「上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書21」1999

### 第二節 歴史的環境

殿城地区は、烏帽子岳西南麓や神川の河岸段丘に沿って縄文時代から弥生時代・古墳時代・奈良平安時代及び、それ以後の時代の遺跡も含めて多くの遺跡が確認されている。

縄文時代の早期では大日ノ木遺跡から早期の押型文系土器・絡状体圧痕文系土器などの早期中葉から末期のものが出土している。前期の土器については城山遺跡・茅御堂遺跡で確認されている。中期から後期の遺跡については、神川左岸の烏帽子岳山麓沿いの日向遺跡・托田遺跡・大日ノ木遺跡・井戸田遺跡等が点在している。また、神川第二段丘面の八千原遺跡群では中期後葉から後期中葉の大規模な集落が確認されている。晩期については大日ノ木遺跡で水式土器や当該期の石器が確認されている。また、神林遺跡でも晩期最終末の土器が確認されている。

弥生時代の遺跡としては後期の箱清水式期のものは中吉田遺跡群・井戸田遺跡・日向遺跡・大日ノ木遺跡などが烏帽子岳山麓沿いに確認されている。神川第二段丘面上では林之郷遺跡・神林遺跡が存在して

いる。また、太田法楽寺遺跡では、弥生時代後期箱清水式期のひとまとまりの集落が調査された。

古墳時代の遺跡としては、大日ノ木遺跡で初頭から前期の集落が確認されている。また、林之郷遺跡では前期から後期にかけての集落が確認されている。さらに、神川第二段丘上に位置する太田法楽寺遺跡・神林遺跡でも後期の集落が確認されている。古墳は、氷沢古墳群・下郷古墳群と呼ばれる古墳の集中地帯が2カ所に確認されている。これらは、後期に属する古墳である。その他にも、赤坂将軍塚古墳・大日ノ木古墳などの後期に属するものがみられる。

奈良・平安時代は上田・小県地方に信濃國府が設置されて信濃國分寺が造営されたこと、官道である東山道が整備されていたことにより繁栄していたことが推測される。その為、当該地域にも多くの遺跡が存在している。太田法楽寺遺跡・林之郷遺跡・堂下遺跡・神林遺跡・立丁場遺跡などが確認されている。

中世以降は、戦国時代には海野氏の所領となっていたと推定される地域である。矢沢・赤坂などは海野氏の一族とされている矢沢氏の所領とされており、山間部には矢沢城が築城されている。

#### ＜参考文献＞

上田市教育委員会「上田市の原始・古代文化」1977

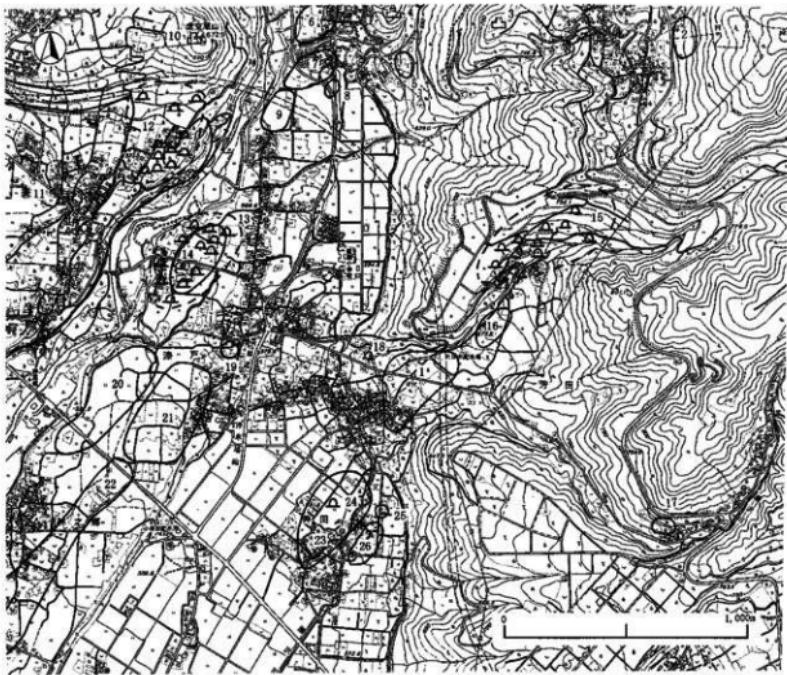
上田小県誌刊行会「上田小県誌（第一巻歴史篇上）」1980

上田市立博物館「発掘された原始・古代」1992

長野県埋蔵文化財センター「上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書21」1999



第1図 調査位置関係（上信越自動車道・ふるさと街道）

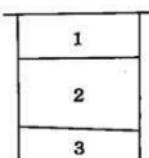


番号	遺跡名	時代	所在地
1	大日ノ木遺跡	縄文～古代	大字多聞字木ノ上、大日ノ木、山側
2	扇形水遺跡	縄文	大字多聞字扇形水
3	矢張北古墳群	中世	大字多聞字北塚
4	矢張南古墳群	中世	大字多聞字南塚
5	下平口遺跡	縄文	大字多聞字下平口
6	前原遺跡	古代	大字多聞字前原
7	平原遺跡	古代	大字多聞字平原
8	下平川遺跡	古代	大字多聞字下平川
9	石川遺跡	古墳	大字多聞字石川
10	伊勢崎遺跡	中世	大字上野字伊勢崎
11	加治田名古屋山古墳群	弥生～古代	大字上野、佐久、名古屋、加治田
12	新島古墳群	古墳	大字上野字新島西面、大島
13	下原古墳群	古墳	大字多聞字下原、多聞、中村
14	仲前遺跡	弥生～古代	大字多聞字仲前
15	本武古墳群	古墳	大字多聞字本武、下田間、木戸
16	東武古墳	縄文・古代	大字多聞字東武
17	奥入遺跡	縄文	大字多聞字奥入
18	大日ノ木古墳	古墳	大字多聞字中庭
19	北ノ平遺跡	古代	大字多聞字北ノ平
20	大日・南高寺遺跡	縄文～平安	大字多聞字南高寺寺、大日
21	八千代遺跡群	縄文・平安・奈良	大字多聞字八千代、室下、南平
22	林之森遺跡群	縄文～平安	大字多聞字林之森、大字和之原、字高砂、芦戸、西原、佐原、村ノ木、下ノ原
23	月川山遺跡	縄文～古代	大字多聞字月川山
24	磐所古墳	古墳	大字多聞字磐所
25	乙了幡遺跡	縄文・古代	大字多聞字乙了幡
26	瓦堀遺跡	縄文	大字多聞字瓦堀

第2図 遺跡位置図

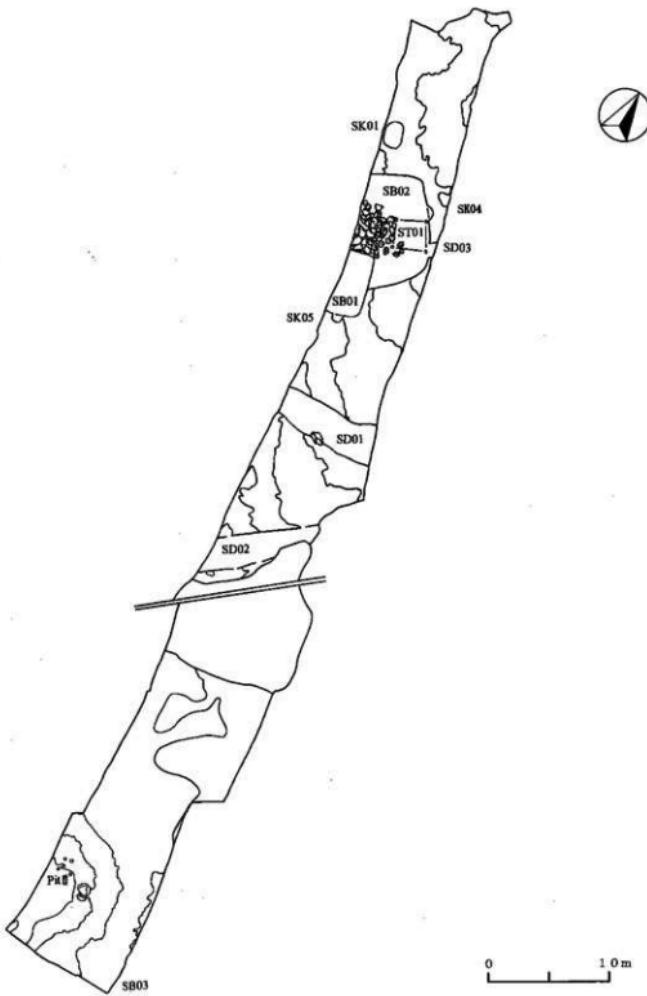


第3図 調査位置図



- 1層：耕作土（畑耕作土）
- 2層：褐色土層（シルト質）
- 3層：黄褐色土層（地山）

第4図 基本土層



第5図 大日ノ木遺跡全体図

## 第三章 遺跡の調査

### 第一節 遺構

大日ノ木遺跡では、①堅穴住居・②掘立柱建物・③溝・④土坑が確認されている。これらの遺構は(財)長野県埋蔵文化財センターが発掘調査した上信越自動車道地点に隣接しており、同一の遺跡として捉えるべきものである。出土遺物から、ア繩文時代早前期・晚期、イ弥生時代後期から古墳時代前期とウ奈良・平安時代の遺構が確認されることが期待された。

#### ①堅穴住居

堅穴住居は3軒が確認されている。SB01は、一辺が約5.6mのほぼ方形を呈する堅穴住居になると思われるが、西半分は調査区域外へと続いている。主軸は北10°西である。床面は堅く敷き締めてあった。堅穴住居内では柱穴や炉の確認ができなかった。出土土器から古墳時代初頭に所属する堅穴住居と思われる。SB02は、一辺が約9.2mのほぼ方形を呈する大型の堅穴住居と思われる。北側のコーナー附近には櫛状の地面を掘り残した施設が確認できる。しかし、堅穴住居の西半分が調査区域外へと続いており全容は不明である。主軸は北37°西である。主柱穴は2本確認されている。床面は堅く敷き締めてあった。炉は中央寄りの炉壠を土器片により囲った地床炉であり2本の主柱穴間に位置している。この土器は箱清水式土器の壺の胴部の一部であった。また、遺構の中央部には人力では持ち上げられないほど大きな石が集中して遺棄されていた。これらの石は、SB01には存在しないことから、SB02を廃棄する際に遺棄したものと思われる。SB02はSB01に切られている。SB02は出土土器から弥生時代後期終末から古墳時代初頭にかけての時期に所属する堅穴住居と思われる。SB03は、調査地区的南端で確認された。しかし、削平が激しく、その床面の一部のみしか確認できなかった。カマドの痕跡があることから古墳時代以降の堅穴住居であったと思われる。

#### ②掘立柱建物

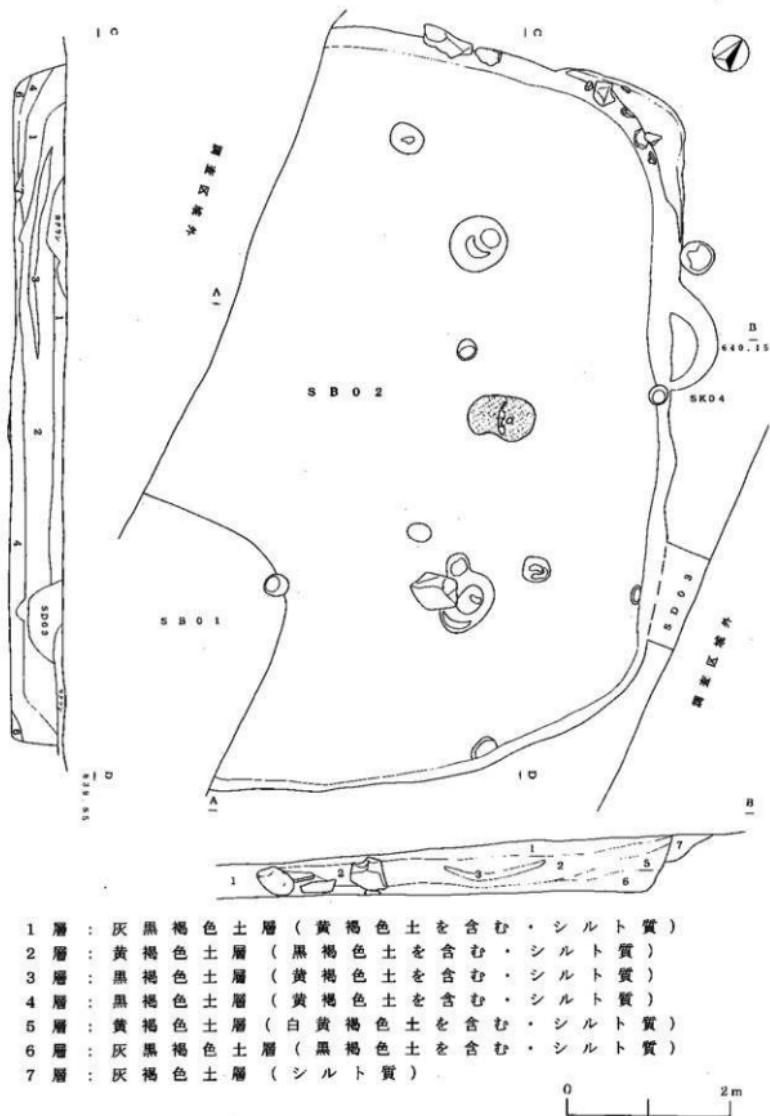
SB02内にST01が確認されている。これは、一間×一間の規模になると思われる。一部の柱穴がSB02の壁を壊していることから、SB02より後に造られたと思われる。しかし、柱穴の直径が20cm程と小さいにもかかわらず堅穴住居の検出面からの深さが1m以上あることから、SB02の痕跡のあるうちに建てられたと推測される。

#### ③溝

溝は3本確認されている。SD01とSD02は上信越自動車道調査地点からつくづく溝である。両者とも断面形が皿状を呈している。SD01は扇状地を横切り北側の瀬沢川へと向かっている。人工的な様相を呈している。SD01は繩文時代から古墳時代までの遺物を出土している。SD02は繩文時代から弥生時代までの遺物を出土している。SD03はSB01とSB02を切っている。しかしながら、出土遺物が少なく、所属時期は不明である。

#### ④土坑

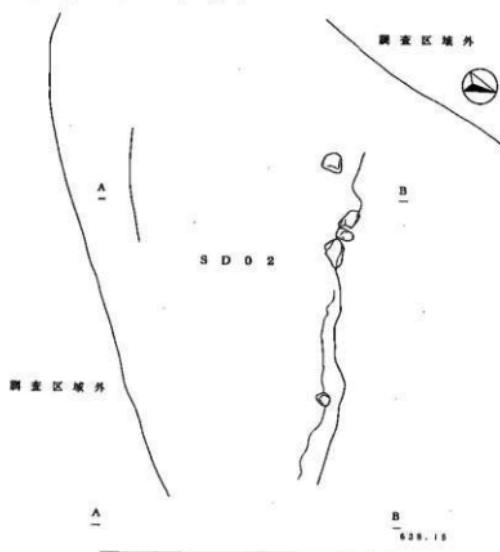
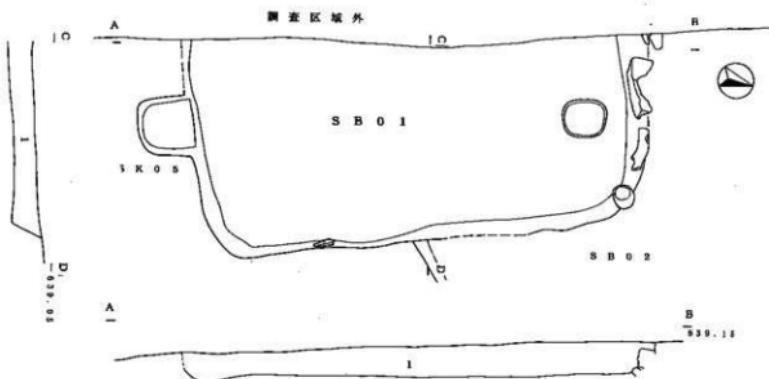
幾つかの土坑が確認されているが、多くは現代のゴミ穴であったり畑の耕作時に掘られた穴であった。しかし、SK01とSK04・SK05については遺構である可能性が非常に高い。SK01とSK05については所属時期は不明であるが、SK04はSB02に切られていることと出土土器から繩文時代のものである可能性がある。調査地区的南端にはピットが5基ほど確認されている。これらは、直径20cm程のほぼ円形のものである。これらは、傾斜面に集中しておりピット群とでも呼ぶべき様相を呈している。ピットの内部からは黒曜石の剥片が出土しており、繩文時代に属する遺構の可能性がある。



第6図 2号住居跡



第7図 1号溝跡



第8図 1号住居跡・2号溝跡

## 第二節 遺物

遺物は土器・石器などが出土している。その所属時期から①縄文時代早前期の遺物②縄文時代晚期の遺物③弥生時代後期から古墳時代前期の遺物④古墳時代後期の遺物⑤奈良・平安時代の遺物⑥その他(石器)の遺物に分けてみたい。

### ①縄文時代早前期

当該期の遺物は、土器・石器などが出土している。早期の土器については、沈線文系土器と絡条体圧痕文系土器に大きく分けることができる。胎土には繊維が混入しているものが多い。

沈線文系土器では口縁部周辺の特徴として、口唇部に刺突を施したもの(第11図4)、円形の刺突を施したもの(第11図1)、ヘラ状工具によると思われる刻み目を施したもの(第11図2・3、第19図1・8)がある。また、口縁部に刺突を施しているもの(第11図3・5・6、第19図8)がある。器面の特徴として斜走沈線を施しているもの(第11図1・4・5、第19図8)や斜走沈線が横羽状を呈するもの(第11図2・3)もみられる。その他に口縁部が外反し、沈線により模様が施されるもの(第9図1、第19図1)や、内面に沈線による模様を施し、口唇から口縁部にかけて縄の圧痕をU字状に施すもの(第9図7)が確認されている。底部については天狗の鼻状の尖底部(第19図13)が出土している。これには、縄文が地文として施されている。

一方、絡条体圧痕文系の土器(第9図2、第11図7・10・12~21、第16図1・2、第19図10・11)は絡条体の圧痕がはっきりとしていないものが多い。また、地文に縄文を施す土器(第9図4、第11図8・9)もみられる。

前期の土器は、羽状縄文を器面に施したもの(第11図24・26)や半裁竹管による模様を施したもの(第16図3、第19図15)がみられるが、出土量は多くない。

### ②縄文時代晚期

当該期の遺物は、土器・石器などが出土している。土器は、粗製の深鉢・精製の深鉢・精製の浅鉢・無文の浅鉢などがみられる。これらを、主要文様要素により分類すると、浮線文・精製無文・細密条痕文・沈線文・条痕文・突蒂文・縄文・撚糸文などの土器に分類することができる。

粗製の深鉢(第9図18~20、第12図42・48・53~64、第13図86・88~93・94・96・97~102、第16図23・25~29・31・32、第17図40~50・54~57、第19図27・28、第20図30~36)は、器面に細密条痕文を施しているものが多い。これらの中には、細密条痕文を地文としながら、その上から稲妻状沈線文を施すもの(第9図19、第17図44・48・49)や突蒂文をもつもの(第19図27)も確認できる。また、東海系の条痕文を施したもの(第9図24、第13図95、第17図51・52)は胎土に小石が混入している。

精製の深鉢(第9図11~14・16・17・21~23、第12図33~39・41・43~47・49・50・65~74、第13図77~85・87、第16図5~17・20・24・34~39、第19図16~18・21~26)は浮線文が施されており器面はナデ・ミガキ調整が施されているものが多い。また、地文に縄文が施されているもの(第13図87)もある。

浅鉢は精製浅鉢(第9図15、第12図40・75・76、第13図85、第16図18・19・21・22・33、第19図19・20・29)には浮線文が施されており器面はナデ・ミガキ調整が施されているものが多い。無文精製浅鉢(第10図33・34、第13図103~106、第17図53)も確認されている。

これらの土器は遺構に伴つたものは無く、破片のみで全体の器形を復元できるものはなかった。しかし、破片の良好な保存状態からは、付近に遺構の存在を推定される。

#### ③弥生時代後期から古墳時代前期

弥生時代後期の土器は「箱清水式土器」と呼ばれている。甕は、器面に櫛描波状文を施し、壺や鉢などに赤色塗彩を施すことを特徴としている。この特徴は古墳時代前期まで残る。弥生時代終末から古墳時代前期にかけては、在地系である箱清水式系の土器以外に外来系の土器が共存するようになる。

箱清水式系の甕は、口縁部を折り返したもの（第14図107・第20図37・39）・口縁部に段をもつもの（第14図108）・通常の単純口縁のものが出土している。また、器面には櫛描波状文が施されたものと櫛描斜走文が施されたもの（第9図28・31・32・第14図112・第18図58～60・第20図39・41）がある。頸部には櫛描廉状文を施したもの・櫛描T字文を施したもの（第9図29・第14図110）が確認できる。箱清水式系の小型の壺（第14図117）は口縁部のみを意識的に欠いている。また、SB02の炉胎土器として使用されたもの（第15図132）は大型の赤彩された壺になると思われる。その他に高坏（第10図37・第14図120・121・第18図62～64・第20図42）・鉢（第10図33・34・第15図126～130）が出土している。

在来系の範疇では捉えられない甕・壺・器台・鉢が確認されている。甕は口縁部を折り返したもの（第14図113・第20図38）とそうでないもの（第14図115・第18図65）がある。壺は、口縁部を受口状にしたもの（第10図39・第14図116・118・119）がある。新器種である器台（第14図124・125）は、赤色塗彩されている。鉢は、有段の口縁部をもつもの（第15図131）である。これらには、北陸系の土器の影響がみられるものが多い。この傾向は、上信越自動車道調査地点と同様である。

#### ④古墳時代後期

古墳時代後期の土器が散見される。土師器の高坏（第14図122・第18図71～75）・須恵器のハンウ（第18図70）などが確認されている。当該調査地区には古墳時代後期の遺構は確認されていないが、上信越自動車道調査地点では当該時期の堅穴住居等が確認されている。

#### ⑤奈良・平安時代

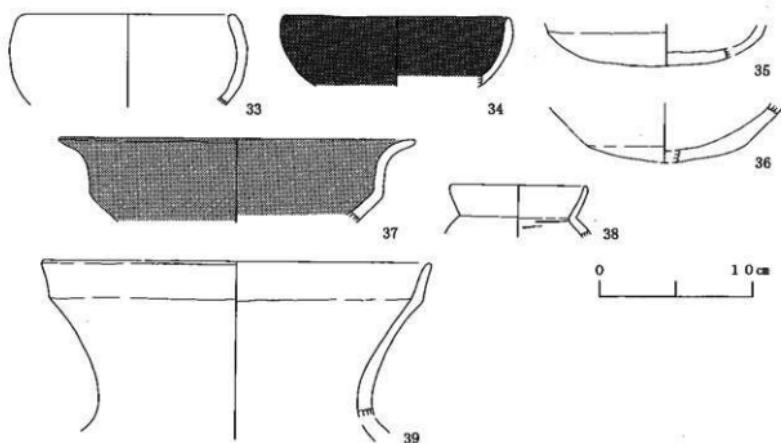
北信型の甕（第20図45）や須恵器の蓋（第20図43・44）が出土している。当該調査地区には奈良・平安時代の遺構は確認されていないが、上信越自動車道調査地点では当該時期の堅穴住居が確認されている。

#### ⑥その他（石器）

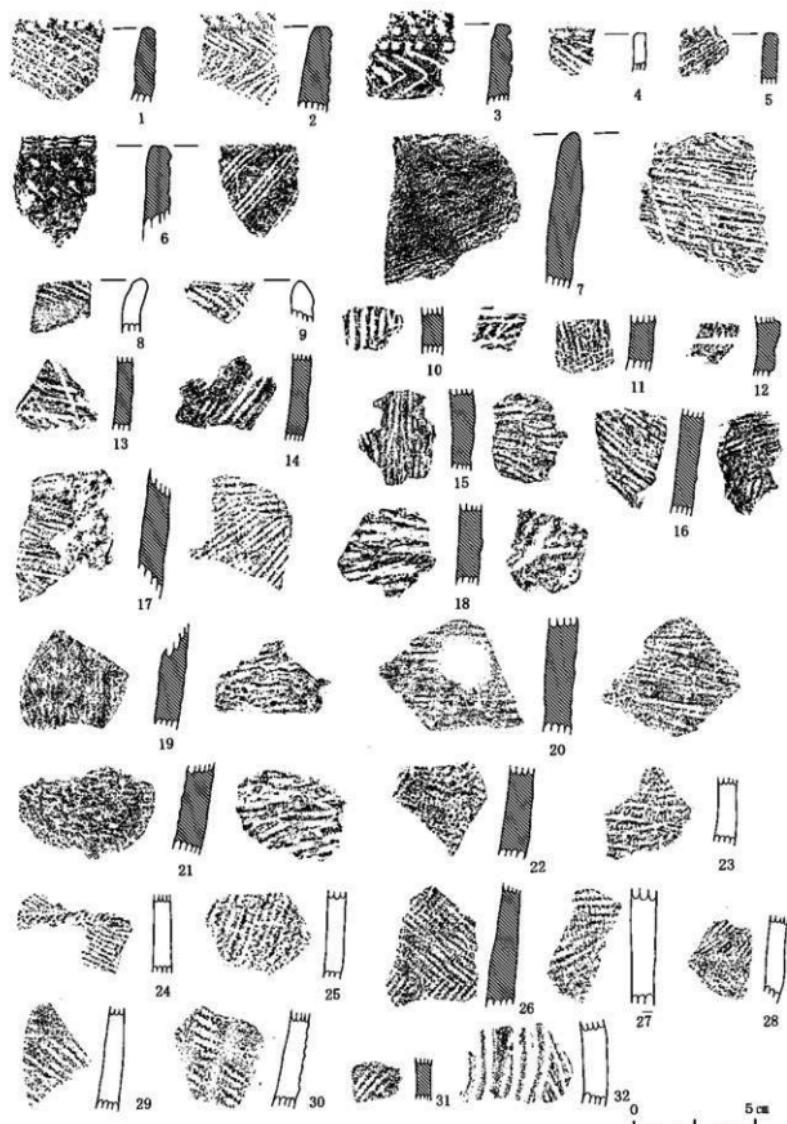
縄文時代早前期の石器と思われるものには石鎌がある。凹基のものと平基のものがあるようであるが、いずれも黒曜石製のものが多い。縄文時代晩期の石器と思われるものには石鎌がある。飛行機形のもののがみられる。所属時期は不明であるが、縄文時代の石器と思われるものは石棒・石匙・スクレイバー・打製石斧など多くみられる。また、石鍬（第22図93・94、第23図96・97）は弥生時代後期から古墳時代前期に属するものと思われる。



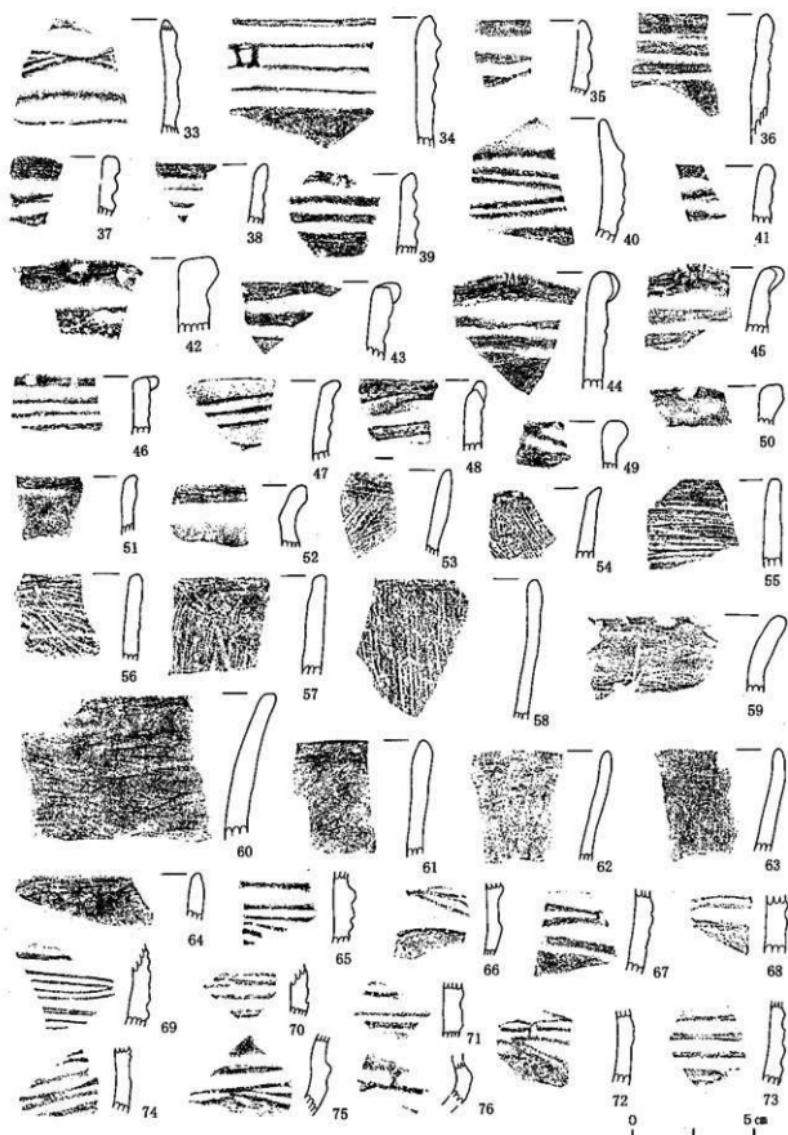
第9図 SB01 出土土器①



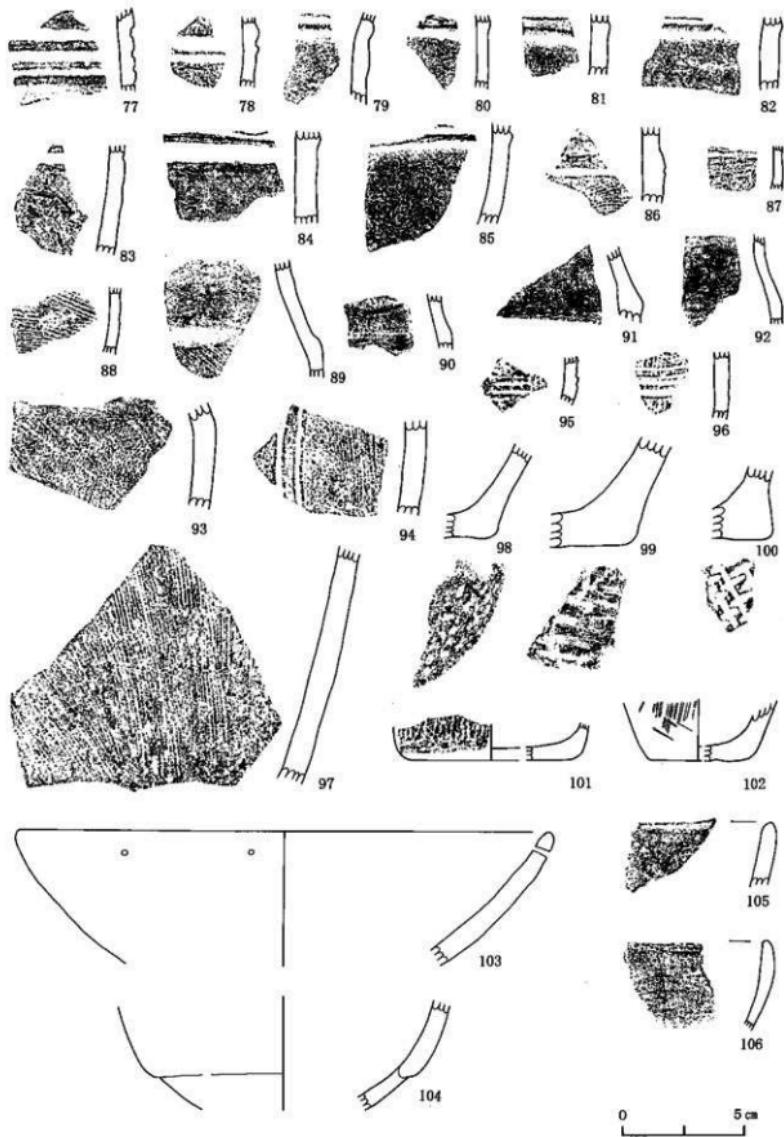
第10図 SB01 出土土器②



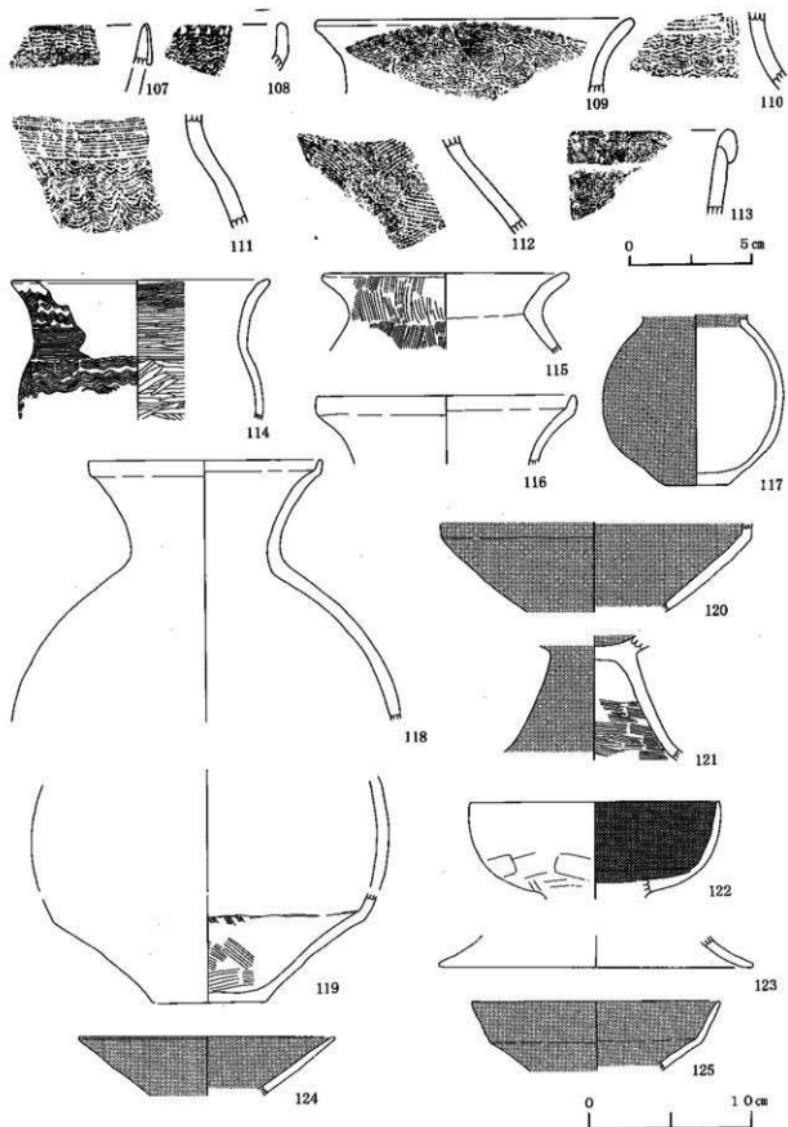
第11図 SB02 出土土器①



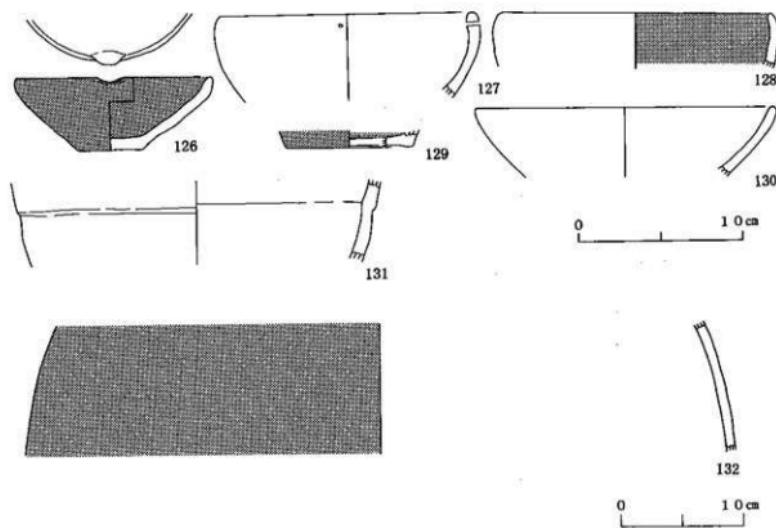
第12図 SB02 出土土器②



第13図 SB02 出土土器③



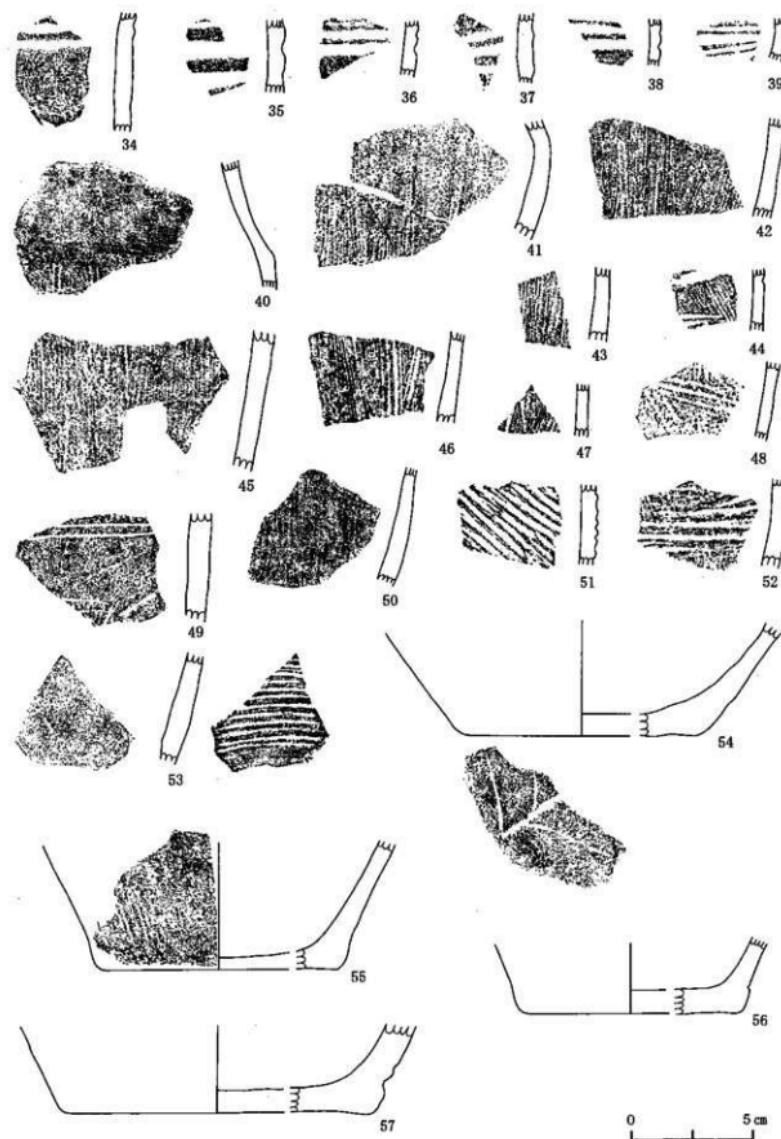
第14図 SB02 出土土器④



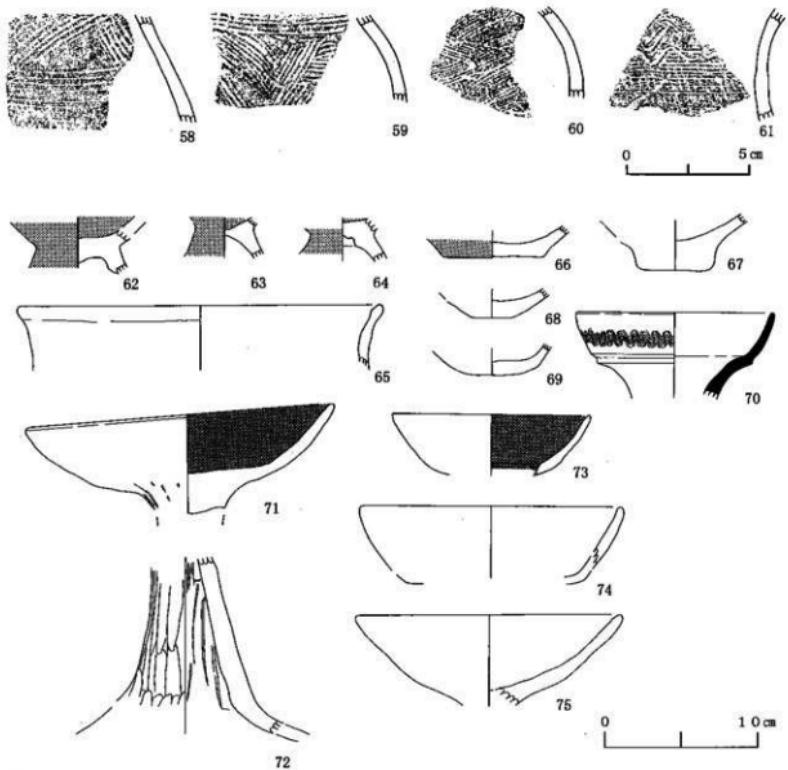
第15図 SB02 出土土器⑤



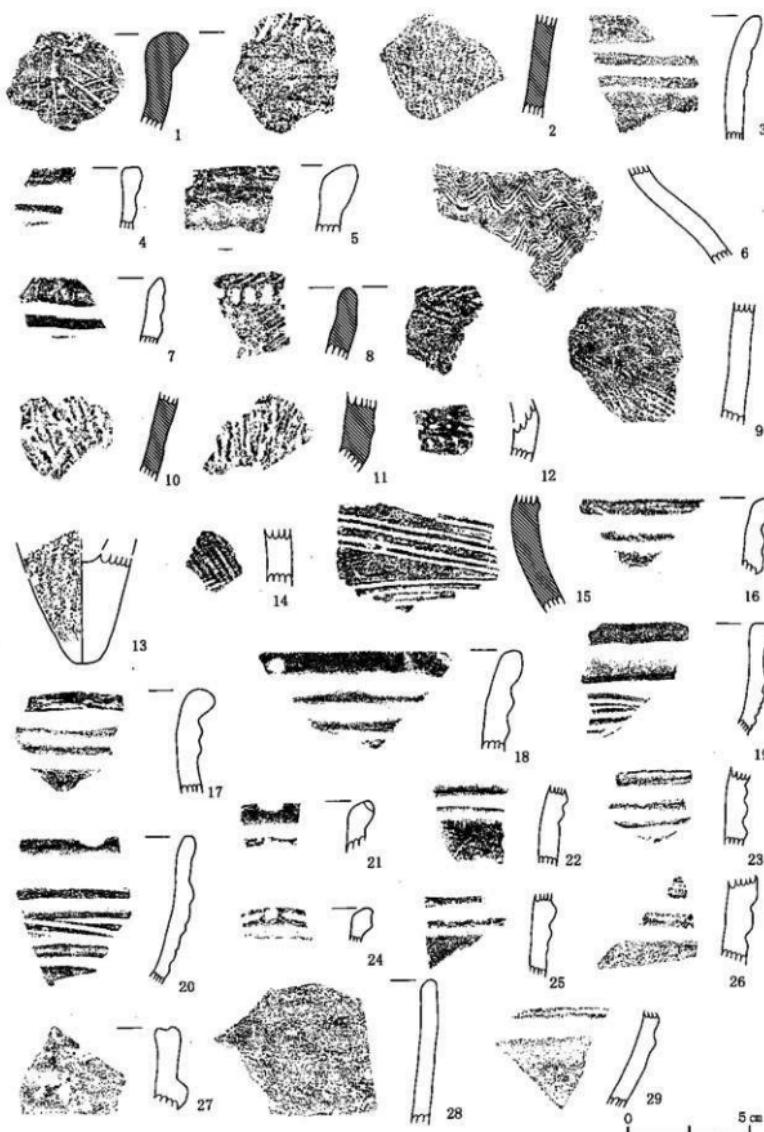
第16図 SD01 出土土器①



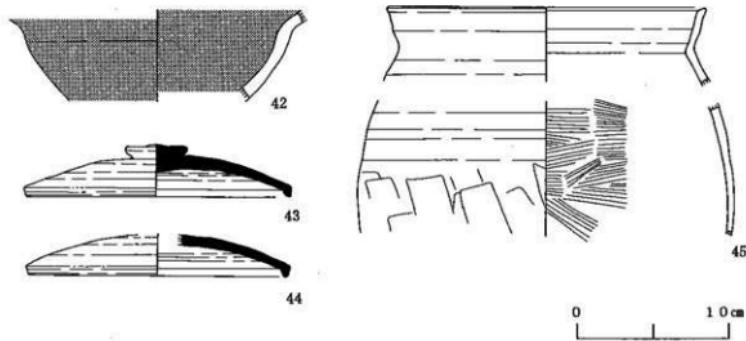
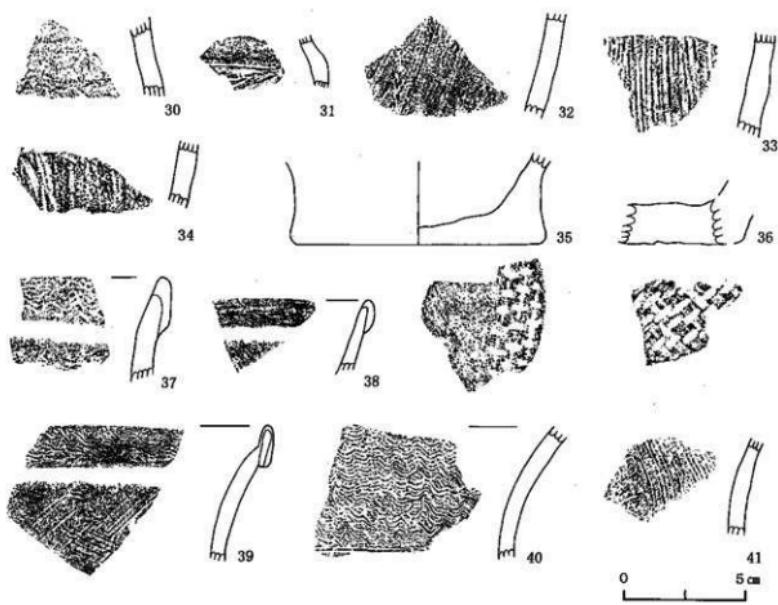
第17図 SD01 出土土器②



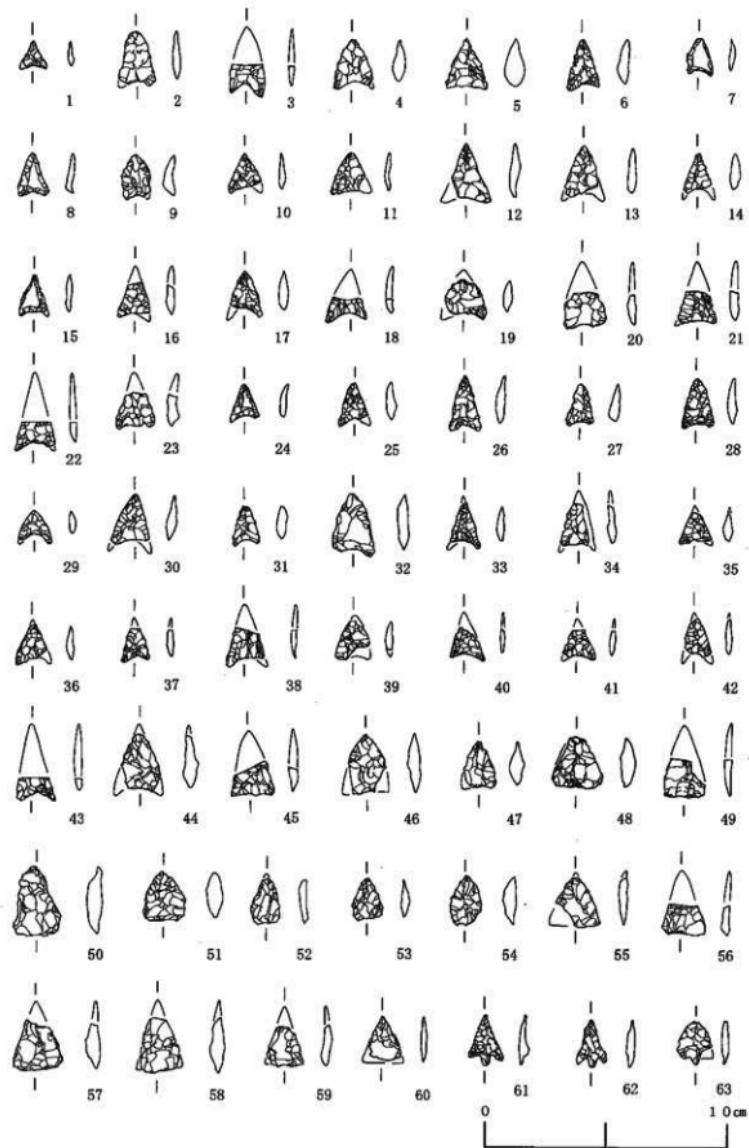
第18図 SD01 出土土器③



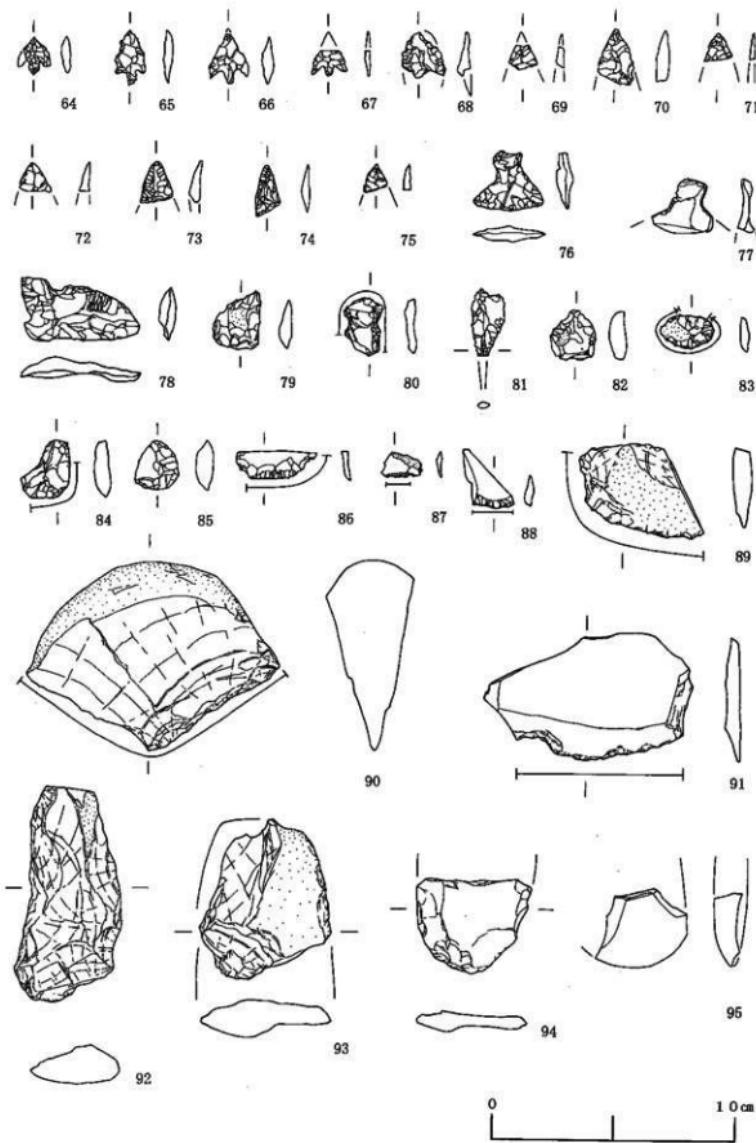
第19図 SD02・SK・遺構外出土土器①



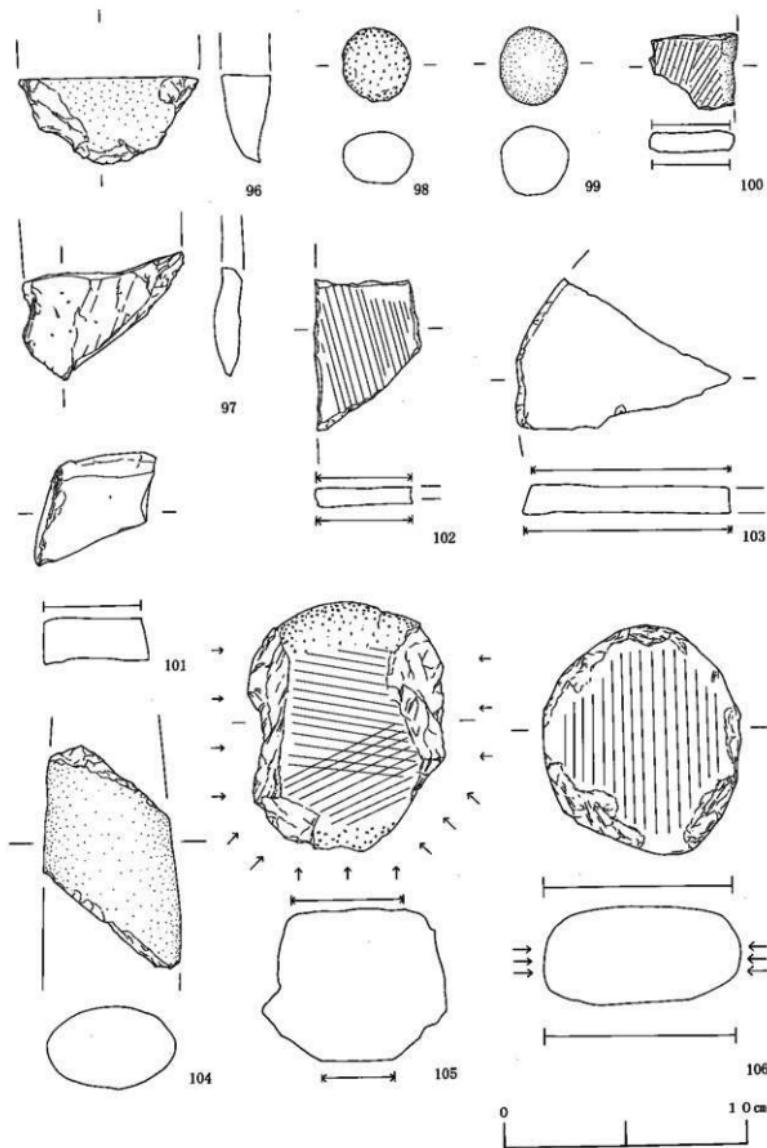
第20図 SD02・SK・遺構外出土土器②



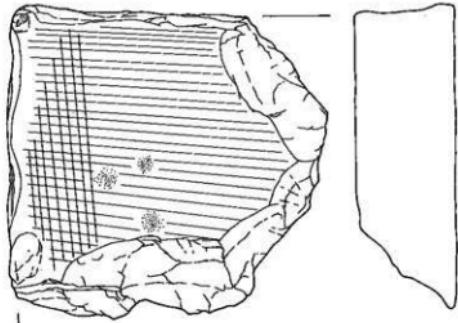
第21図 石器①



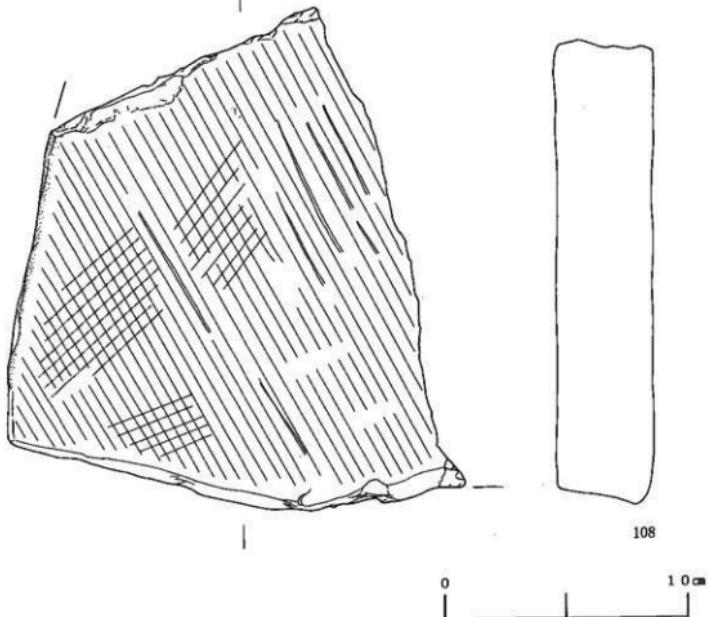
第22図 石器②



第23図 石器③



107



108

第24図 石器④

< S B O 1 >  
土器観察表（撰文）

図版	N.O.	時期	A器種 B部位 C調整施文技法	a色調 b胎土 c焼成	備考
第9図	1	早期	A深鉢B口縁部近C沈線文	a暗赤褐色 b砂粒、金星母 c良好	含織維
第9図	2	早期	A深鉢B胴部C格条件压痕	a赤褐色 b金星母 c良好	
第9図	3	早前期	A深鉢B胴部	a明赤褐色 b白色粒子 c良好	含織維
第9図	4	早前期	A深鉢B口縁部C绳文、口唇部にも绳文を施す。	a暗赤褐色 b砂粒、金星母 c良好	含織維
第9図	5	早前期	A深鉢B胴部C绳文	a褐色 b砂粒 c良好	
第9図	6	早前期	A深鉢B胴部C绳文	a赤褐色 b砂粒、金星母 c良好	
第9図	7	早期	A深鉢B口縁部C沈線、刺突	a暗赤褐色 b鐵素 c良好	含織維
第9図	8	早前期	A深鉢B胴部C绳文	a墨褐色 b小石、石英、黄玉 c良好	含織維
第9図	9	早前期	A深鉢B胴部	a褐色 b紫色粒子 c良好	含織維
第9図	10	中期	A深鉢B口縁部	a褐色 b石英、砂粒 c良好	
第9図	11	晚期	A深鉢B口縁部C浮雕文、突起を押圧	a褐色 b砂粒 c良好	
第9図	12	晚期	A深鉢B口縁部C浮雕文、突起をもつ	a暗灰色 b砂粒 c良好	
第9図	13	晚期	A深鉢B胴部C浮雕文	aに赤い褐色 b砂粒 c良好	
第9図	14	晚期	A深鉢B口縁部C浮雕文	aに赤い褐色 b砂粒 c良好	
第9図	15	晚期	A深鉢B口縁部C浮雕文	aに赤い褐色 b砂粒 c良好	
第9図	16	晚期	A深鉢B口縁部C浮雕文	aに赤い褐色 b砂粒 c良好	
第9図	17	晚期	A深鉢B胴部C浮雕文	a褐色 b砂粒 c良好	
第9図	18	晚期	A深鉢B胴部C細密条痕文	aに赤い褐色 b砂粒、鐵母 c良好	
第9図	19	晚期	A深鉢B胴部C細密条痕文	a墨褐色 b砂粒 c良好	
第9図	20	晚期	A深鉢B胴部C条痕文	aに赤い褐色 b砂粒 c良好	
第9図	21	晚期	A深鉢B口縁部C突起を押圧	aに赤い褐色 b砂粒 c良好	
第9図	22	晚期	A深鉢B口縁部C突起をもつ	a褐色 b鐵素 c良好	
第9図	23	晚期	A深鉢B口縁部	a暗灰色 b砂粒 c良好	
第9図	24	晚期	A深鉢B胴部C条痕文	aに赤い褐色 b小石 c良好	
第10図	33	晚期	A浅鉢B口縁部C無文、器面に黒色処理	a褐色 b砂粒 c良好	
第10図	34	晚期	A浅鉢B口縁部C無文	a墨褐色 b砂粒 c良好	

土器観察表（弥生後期～）

図版	N.O.	時代	A器種 B器形 C文様 D製作技法の特徴	a色調 b胎土 c焼成	部位
第9図	25	弥生後期	A壺C波状文	a褐色 b砂粒 c良好	口縁部
第9図	26	弥生後期	A壺C波状文	a赤褐色 b砂粒 c良好	口縁部
第9図	27	弥生後期	A壺C波状文	a明赤褐色 b砂粒 c良好	口縁部
第9図	28	弥生後期	A壺C斜走文	a褐色 b砂粒 c良好	胴部
第9図	29	弥生後期	A壺B口状口縁C波状文、T字文	a暗赤褐色 b砂粒 c良好	口縁部
第9図	30	弥生後期	A壺C波状文	a墨褐色 b砂粒 c良好	胴部
第9図	31	弥生後期	A壺C斜走文	a赤褐色 b砂粒 c良好	胴部
第9図	32	弥生後期	A壺C斜走文	a暗赤褐色 b砂粒 c良好	胴部
第10図	35	古墳前期	A鉢	a明赤褐色 b砂粒 c良好	底部
第10図	36	古墳前期	A鉢	a褐色 b茶色粒子 c良好	底部
第10図	37	弥生後期	A高耳C赤彩	a赤褐色 b砂粒 c良好	耳部
第10図	38	古墳前期	A小壺	a赤褐色 b砂粒 c良好	口縁部
第10図	39	古墳前期	A壺B口状口縁	aに赤い褐色 b砂粒 c良好	口縁部

< S B 0 2 >  
土器觀察表 (英文)

圖版	N O.	時期	A 器種 B 部位 C 調整施文後法	a 色調 b 磨耗 c 搞成	備考
第 1 圖	1	早期	A 深鉢 B 口縁部 C 沈痕、口唇部に刺突	a赤褐色 b 金鑑母 c 良好	含鐵母
第 1 圖	2	早期	A 深鉢 B 口縁部 C 沈痕、口唇部に割み目	a明褐色 b 金鑑母 c 良好	含鐵母
第 1 圖	3	早期	A 深鉢 B 口縁部 C 沈痕、刺突、口唇部に割み目	a明褐色 b 砂粒 c 良好	含鐵母
第 1 圖	4	早期	A 深鉢 B 口縁部 C 沈痕、刺突、口唇部に刺突	a暗褐色 b 金鑑母 c 良好	含鐵母
第 1 圖	5	早期	A 深鉢 B 口縁部 C 沈痕、刺突	a赤褐色 b 石英、砂粒 c 良好	含鐵母
第 1 圖	6	早期	A 深鉢 B 口縁部 C 刺突、格条体压痕	a暗赤褐色 b 小石 c 良好	含鐵母
第 1 圖	7	早期	A 深鉢 B 口縁部 C 格条体压痕	a橙色 b 砂粒 c 良好	含鐵母
第 1 圖	8	早期	A 深鉢 B 口縁部 C 繩文、口唇部に刺突の痕跡	a明赤褐色 b 砂粒 c 良好	
第 1 圖	9	早期	A 深鉢 B 口縁部 C 繩文	a黑褐色 b 金鑑母 c 良好	
第 1 圖	10	早期	A 深鉢 B 腹部 C 格条体压痕	a明褐色 c 良好	含鐵母
第 1 圖	11	早期	A 深鉢 B 腹部 C 繩文	a赤褐色 b 金鑑母、砂粒 c 良好	含鐵母
第 1 圖	12	早期	A 深鉢 B 腹部 C 格条体压痕	a黑褐色 c 良好	含鐵母
第 1 圖	13	早期	A 深鉢 B 腹部 C 格条体压痕	a橙色 b 茶色粒子 c 良好	含鐵母
第 1 圖	14	早期	A 深鉢 B 腹部 C 格条体压痕	a茶褐色 b 白色粒子 c 良好	含鐵母
第 1 圖	15	早期	A 深鉢 B 腹部 C 格条体压痕	aにぶい 黄褐色 b 白色粒子 c 良好	含鐵母
第 1 圖	16	早期	A 深鉢 B 腹部 C 格条体压痕	a橙色 b 砂粒 c 良好	含鐵母
第 1 圖	17	早期	A 深鉢 B 腹部 C 格条体压痕	a橙色 b 白色粒子 c 良好	含鐵母
第 1 圖	18	早期	A 深鉢 B 腹部 C 格条体压痕	a橙色 b 茶色粒子 c 良好	含鐵母
第 1 圖	19	早期	A 深鉢 B 腹部 C 格条体压痕	a橙色 b 白色粒子 c 良好	含鐵母
第 1 圖	20	早期	A 深鉢 B 腹部 C 格条体压痕	a橙色 b 白色粒子 c 良好	含鐵母
第 1 圖	21	早期	A 深鉢 B 腹部 C 格条体压痕	a明赤褐色 b 白色、茶色粒子 c 良好	含鐵母
第 1 圖	22	早前期	A 深鉢 B 腹部 C 繩文	a明赤褐色 b 砂粒 c 良好	
第 1 圖	23	早前期	A 深鉢 B 腹部 C 繩文	a赤褐色 b 砂粒 c 良好	
第 1 圖	24	前期	A 深鉢 B 腹部 C 繩文	a赤褐色 b 砂粒、金鑑母 c 良好	
第 1 圖	25	前期	A 深鉢 B 腹部 C 繩文	a明赤褐色 b 砂粒 c 良好	
第 1 圖	26	前期	A 深鉢 B 腹部 C 繩文	a明赤褐色 b 砂粒、金鑑母 c 良好	含鐵母
第 1 圖	27	前期	A 深鉢 B 腹部 C 繩文	a赤褐色 b 砂粒 c 良好	
第 1 圖	28	前期	A 深鉢 B 腹部 C 繩文	a暗赤褐色 b 砂粒、金鑑母 c 良好	含鐵母
第 1 圖	29	前期	A 深鉢 B 腹部 C 繩文	a明赤褐色 b 砂粒、金鑑母 c 良好	
第 1 圖	30	前期	A 深鉢 B 腹部 C 繩文	aにぶい 橙色 b 茶色粒子 c 良好	
第 1 圖	31	前期	A 深鉢 B 腹部 C 繩文	a明赤褐色 b 砂粒 c 良好	含鐵母
第 1 圖	32	中期	A 深鉢 B 腹部 C 繩文	a黑褐色 b 砂粒 c 良好	
第 1 圖	33	晚期	A 深鉢 B 口縁部 C 浮繪文	a橙色 b 砂粒 c 良好	
第 1 圖	34	晚期	A 深鉢 B 口縁部 C 浮繪文	a灰褐色 b 砂粒 c 良好	
第 1 圖	35	晚期	A 深鉢 B 口縁部 C 浮繪文	a黑褐色 b 砂粒 c 良好	
第 1 圖	36	晚期	A 深鉢 B 口縁部 C 浮繪文	aにぶい 橙色 b 砂粒 c 良好	
第 1 圖	37	晚期	A 深鉢 B 口縁部 C 浮繪文	aにぶい 橙色 b 砂粒 c 良好	
第 1 圖	38	晚期	A 深鉢 B 口縁部 C 浮繪文	aにぶい 橙色 b 砂粒 c 良好	
第 1 圖	39	晚期	A 深鉢 B 口縁部 C 浮繪文	aにぶい 橙色 b 砂粒 c 良好	土製凹板
第 1 圖	40	晚期	A 深鉢 B 口縁部 C 浮繪文	a橙色 b 砂粒 c 良好	
第 1 圖	41	晚期	A 深鉢 B 口縁部 C 浮繪文	a黑褐色 b 砂粒、茶色粒子 c 良好	
第 1 圖	42	晚期	A 深鉢 B 口縁部 C 突起を押庄	a褐色 b 砂粒、小石 c 良好	

< S B O 2 >  
土器觀察表(縦文)

図版	N.O.	時期	A器種	B部位	C調査施文技法	a色調	b胎土	c焼成	備考
第12図	43	晩期	A深鉢B口縁部C浮縫文			a褐色	b砂粒	c良好	
第12図	44	晩期	A深鉢B口縁部C浮縫文、突起をもつ			aに赤い褐色	b砂粒、茶色粒子	c良好	
第12図	45	晩期	A深鉢B口縁部C浮縫文、突起をもつ			a褐色	b砂粒	c良好	
第12図	46	晩期	A深鉢B口縁部C浮縫文、突起を押圧			a褐色	b砂粒	c良好	
第12図	47	晩期	A深鉢B口縁部C浮縫文			a褐色	b砂粒、茶色粒子	c良好	
第12図	48	晩期	A深鉢B口縁部C条重文、突起をもつ			aに赤い褐色	b砂粒、茶色粒子	c良好	
第12図	49	晩期	A深鉢B口縁部C突起をもつ			a褐色	b砂粒	c良好	
第12図	50	晩期	A深鉢B口縁部C突起を押圧			a褐色	b砂粒	c良好	
第12図	51	晩期	A深鉢B口縁部			a褐色	b砂粒	c良好	
第12図	52	晩期	A深鉢B口縁部			a黄褐色	b砂粒、茶色粒子	c良好	
第12図	53	晩期	A深鉢B口縁部C細密条痕文			a褐色	b砂粒	c良好	
第12図	54	晩期	A深鉢B口縁部C細密条痕文			a淡黄褐色	b砂粒	c良好	
第12図	55	晩期	A深鉢B口縁部C細密条痕文			a淡黄褐色	b砂粒	c良好	
第12図	56	晩期	A深鉢B口縁部C細密条痕文			aに赤い褐色	b砂粒	c良好	
第12図	57	晩期	A深鉢B口縁部C細密条痕文			aに赤い褐色	b砂粒	c良好	
第12図	58	晩期	A深鉢B口縁部C細密条痕文			a褐色	b砂粒	c良好	
第12図	59	晩期	A深鉢B口縁部C無文			a淡黄褐色	b砂粒	c良好	
第12図	60	晩期	A深鉢B口縁部C無文			a明褐色	b砂粒	c良好	
第12図	61	晩期	A深鉢B口縁部C無文			a褐色	b砂粒	c良好	
第12図	62	晩期	A深鉢B口縁部C無文			a淡黄褐色	b砂粒	c良好	
第12図	63	晩期	A深鉢B口縁部C無文			a暗赤褐色	b砂粒	c良好	
第12図	64	晩期	A深鉢B口縁部C無文			a褐色	b砂粒	c良好	
第12図	65	晩期	A深鉢B胴部C浮縫文、赤彩			aに赤い褐色	b砂粒	c良好	
第12図	66	晩期	A深鉢B胴部C浮縫文			a褐色	b砂粒	c良好	
第12図	67	晩期	A深鉢B胴部C浮縫文、赤彩			a同灰色	b砂粒、茶色粒子	c良好	
第12図	68	晩期	A深鉢B胴部C浮縫文			a灰褐色	b砂粒、茶色粒子	c良好	
第12図	69	晩期	A深鉢B胴部C浮縫文			a褐色	b砂粒	c良好	
第12図	70	晩期	A深鉢B胴部C浮縫文			a褐色	b砂粒、茶色粒子	c良好	
第12図	71	晩期	A深鉢B胴部C浮縫文			a赤褐色	b砂粒	c良好	
第12図	72	晩期	A深鉢B胴部C浮縫文			aに赤い褐色	b砂粒	c良好	
第12図	73	晩期	A浅鉢B胴部C浮縫文			aに赤い褐色	b砂粒	c良好	土製円板
第12図	74	晩期	A深鉢B胴部C浮縫文			aに赤い褐色	b砂粒	c良好	
第12図	75	晩期	A浅鉢B胴部C浮縫文、赤彩			a黒褐色	b砂粒、茶色粒子	c良好	
第12図	76	晩期	A浅鉢B胴部C浮縫文			aに赤い褐色	b砂粒、茶色粒子	c良好	
第13図	77	晩期	A浅鉢B胴部C浮縫文			a黒褐色	b砂粒	c良好	
第13図	78	晩期	A浅鉢B胴部C浮縫文			aに赤い褐色	b砂粒、茶色粒子	c良好	
第13図	79	晩期	A深鉢B胴部C浮縫文			aに赤い褐色	b砂粒	c良好	
第13図	80	晩期	A深鉢B胴部C浮縫文			aに赤い褐色	b砂粒	c良好	
第13図	81	晩期	A深鉢B胴部C浮縫文			a黒褐色	b砂粒	c良好	
第13図	82	晩期	A深鉢B胴部C浮縫文			a黒褐色	b砂粒	c良好	
第13図	83	晩期	A深鉢B胴部C浮縫文			a黒褐色	b砂粒	c良好	
第13図	84	晩期	A深鉢B胴部C浮縫文			a黒褐色	b砂粒	c良好	

< S B O 2 >  
土器觀察表 (鷹文)

図版	N.O.	時期	A器種 B部位 C文様 D調整施文技法	a色調 b粘土 c集成	備考
第13図	8 5	晩期	A洗鉢B脇部C浮線文、赤彩	a褐色 b砂粒、茶色粒子 c良好	
第13図	8 6	晩期	A深鉢B脇部C浮線文	aにぶい褐色 b砂粒 c良好	
第13図	8 7	晩期	A深鉢B脇部C網文	aにぶい褐色 b砂粒 c良好	
第13図	8 8	晩期	A深鉢B脇部C細密条痕文	a褐色 b砂粒 c良好	
第13図	8 9	晩期	A深鉢B脇部C細密条痕文	a褐色 b砂粒 c良好	
第13図	9 0	晩期	A深鉢B脇部	aにぶい褐色 b砂粒 c良好	
第13図	9 1	晩期	A深鉢B脇部	aにぶい褐色 b砂粒 c良好	
第13図	9 2	晩期	A深鉢B脇部	a褐色 b砂粒 c良好	
第13図	9 3	晩期	A深鉢B脇部C細密条痕文	a褐色 b砂粒、茶色粒子 c良好	
第13図	9 4	晩期	A深鉢B脇部C細密条痕文、沈線	a褐色 b砂粒 c良好	
第13図	9 5	晩期	A深鉢B脇部C条痕文	a褐色 b小石 c良好	
第13図	9 6	晩期	A深鉢B脇部C細密条痕文	aにぶい褐色 c良好	
第13図	9 7	晩期	A深鉢B脇部C細密条痕文	a褐色 b砂粒 c良好	
第13図	9 8	晩期	A深鉢B底部C網代底	a褐色 b砂粒、茶色粒子 c良好	
第13図	9 9	晩期	A深鉢B底部C網代底	a褐色 b砂粒 c良好	
第13図	1 0 0	晩期	A深鉢B底部C網代底	a褐色 b砂粒 c良好	
第13図	1 0 1	晩期	A深鉢B底部C細密条痕文	aにぶい褐色 b砂粒、茶色粒子 c良好	
第13図	1 0 2	晩期	A深鉢B底部C細密条痕文	aにぶい褐色 c良好	
第13図	1 0 3	晩期	A洗鉢B口縁部C無文、2つの穴	a褐色 b砂粒 c良好	
第13図	1 0 4	晩期	A洗鉢B脇部C無文、底をもつ	a褐色 b砂粒 c良好	
第13図	1 0 5	晩期	A洗鉢B口縁部C無文、突起をもつ	a褐色 b砂粒 c良好	
第13図	1 0 6	晩期	A洗鉢B口縁部C無文	a褐色 b砂粒 c良好	

土器觀察表 (弥生後期～)

図版	N.O.	時代	A器種 B器形 C文様 D製作技法の特徴	a色調 b粘土 c集成	部位
第14図	1 0 7	弥生後期	A壺B折液口縁C口縁部に縦状文	aにぶい褐色 b砂粒 c良好	口縁
第14図	1 0 8	弥生後期	A壺B受け口状口縁C口唇部に削突、波状文	a褐色 b砂粒 c良好	口縁
第14図	1 0 9	弥生後期	A壺C波状文	a灰褐色 b砂粒 c良好	口縁
第14図	1 1 0	弥生後期	A壺C波状文、T字文	a暗褐色 b砂粒 c良好	頸部
第14図	1 1 1	弥生後期	A壺C波状文、巻状文	a暗褐色 b砂粒 c良好	頸部
第14図	1 1 2	弥生後期	A壺C斜走文	a暗褐色 b砂粒、金墨母 c良好	頸部
第14図	1 1 3	古墳前期	A壺B折液口縁	a黒褐色 b砂粒 c良好	口縁
第14図	1 1 4	弥生後期	A壺C波状文、巻状文	a黒褐色 b砂粒 c良好	口縁～頸部
第14図	1 1 5	古墳前期	A壺Dハケナデ	a暗褐色 b砂粒 c良好	口縁～頸部
第14図	1 1 6	古墳前期	A壺B受け口状口縁	a褐色 b砂粒 c良好	口縁
第14図	1 1 7	弥生後期	A壺C赤彩	a褐色 b砂粒 c良好	頸部
第14図	1 1 8	古墳前期	A壺B受け口状口縁、119と同一個体	a赤褐色 b砂粒 c良好	口縁～肩部
第14図	1 1 9	古墳前期	A壺B底部に底をもつ、118と同一個体	a赤褐色 b砂粒 c良好	底部～胴部
第14図	1 2 0	弥生後期	A高环C赤彩	a赤褐色 b砂粒 c良好	环部
第14図	1 2 1	弥生後期	A高环C赤彩	a赤褐色 b砂粒 c良好	环部
第14図	1 2 2	古墳後期	A高环C内面を黒色処理	aにぶい褐色 c良好	环部
第14図	1 2 3	古墳前期	A高环	a暗褐色 b砂粒 c良好	环部
第14図	1 2 4	古墳前期	A器台C赤彩	a褐色 b砂粒 c良好	支脚

< S B O 2 >  
土器観察表(弥生後期～)

図版	N.O.	時代	A器種 B器形 C文様 D製作技法の特徴	a色調 b胎土 c施成	部位
第14図	125	古墳前期	A器台C赤彩	a黒褐色 b砂粒 c良好	口縁
第15図	126	弥生終末	A片口鉢C赤彩	a赤褐色 b砂粒 c良好	光形
第15図	127	古墳前期	A鉢C1つの穴	aにぶい褐色 b砂粒 c良好	口縁
第15図	128	弥生終末	A鉢C赤彩	a黒褐色 b砂粒 c良好	口縁
第15図	129	弥生終末	A鉢B底部上げ底C赤彩	a赤褐色 b砂粒 c良好	底部
第15図	130	古墳前期	A鉢	a赤褐色 b砂粒 c良好	口縁
第15図	131	弥生終末	A鉢B段をもつ	a黒褐色 b砂粒 c良好	肩部
第15図	132	弥生後期	A蓋C赤彩、火焰土器	a赤褐色 b砂粒 c良好	肩部

< S D O 1 >  
土器観察表(摘要)

図版	N.O.	時期	A器種 B部位 C調整施文技法	a色調 b胎土 c施成	備考
第16図	1	早期	A深鉢B脇部C格条体压痕	a明赤褐色 b白色粒子 c良好	含織紋
第16図	2	早期	A深鉢B脇部C格条体压痕	a褐色 b砂粒、茶色粒子 c良好	含織紋
第16図	3	早期	A深鉢B脇部C半狀竹管	a赤褐色 b白色粒子 c良好	含織紋
第16図	4	前期	A深鉢B脇部C調文	aにぶい褐色 b砂粒 c良好	
第16図	5	晚期	A深鉢B口縁部C浮織文、突起をもつ	a褐色 b砂粒 c良好	
第16図	6	晚期	A深鉢B口縁部C浮織文	a褐色 b砂粒 c良好	
第16図	7	晚期	A深鉢B口縁部C弱い突起をもつ	a褐色 b砂粒 c良好	
第16図	8	晚期	A深鉢B口縁部	a明赤褐色 b砂粒 c良好	
第16図	9	晚期	A深鉢B口縁部C浮織文	a褐色 b砂粒 c良好	
第16図	10	晚期	A深鉢B口縁部	a銀白色 b砂粒 c良好	
第16図	11	晚期	A深鉢B口縁部C突起をもつ	a褐色 b砂粒 c良好	
第16図	12	晚期	A深鉢B口縁部C浮織文、突起をもつ、1つの穴	a褐灰色 b砂粒 c良好	
第16図	13	晚期	A深鉢B口縁部C浮織文	a黒褐色 b砂粒 c良好	
第16図	14	晚期	A深鉢B口縁部C浮織文	aにぶい褐色 b砂粒 c良好	
第16図	15	晚期	A深鉢B口縁部C浮織文、細密条底文、突起を押圧	a褐色 b砂粒 c良好	
第16図	16	晚期	A深鉢B口縁部C浮織文	aにぶい褐色 b砂粒 c良好	
第16図	17	晚期	A深鉢B口縁部C浮織文	aにぶい褐色 b砂粒 c良好	
第16図	18	晚期	A深鉢B口縁部	a明赤褐色 b砂粒 c良好	
第16図	19	晚期	A深鉢B口縁部C浮織文	a褐色 b砂粒 c良好	
第16図	20	晚期	A深鉢B口縁部C突起をもつ	a赤褐色 b砂粒 c良好	
第16図	21	晚期	A深鉢B口縁部C突起をもつ	a赤褐色 b砂粒 c良好	
第16図	22	晚期	A深鉢B口縁部C第付文	a褐灰色 b砂粒、茶色粒子 c良好	
第16図	23	晚期	A深鉢B口縁部C浮織文、突起を押圧	aにぶい褐色 b砂粒 c良好	
第16図	24	晚期	A深鉢B口縁部C浮織文、突起をもつ	a黒褐色 b砂粒 c良好	
第16図	25	晚期	A深鉢B口縁部C突起をもつ	a褐色 b砂粒 c良好	
第16図	26	晚期	A深鉢B口縁部C細密条底文	a暗赤褐色 b砂粒 c良好	
第16図	27	晚期	A深鉢B口縁部C細密条底文	a褐色 b砂粒 c良好	
第16図	28	晚期	A深鉢B口縁部C細密条底文	aにぶい褐色 b砂粒 c良好	
第16図	29	晚期	A深鉢B口縁部C無文	a褐色 b砂粒 c良好	
第16図	30	晚期	A深鉢B脇部C沈痕	a明褐色 b砂粒 c良好	

< S D O 1 >  
土器觀察表(鴻文)

図版	N.O.	時期	A 器種 B 部位 C 調整施文技法	a 色調 b 脂土 c 陶成	備考
第16図	3 1	晚期	A 深鉢 B 口縁部 C 無文	aにぶい褐色 b砂粒 c良好	
第16図	3 2	晚期	A 深鉢 B 口縁部 C 無文	a褐色 b砂粒 c良好	
第16図	3 3	晚期	A 深鉢 B 制部 C 浮織文	a褐色 b砂粒 c良好	
第17図	3 4	晚期	A 深鉢 B 制部 C 浮織文	a褐色 b砂粒 c良好	
第17図	3 5	晚期	A 深鉢 B 制部 C 浮織文	a赤褐色 b砂粒 c良好	
第17図	3 6	晚期	A 深鉢 B 制部 C 浮織文	a褐色 b砂粒 c良好	
第17図	3 7	晚期	A 深鉢 B 制部 C 浮織文	a淡黄褐色 b砂粒 c良好	
第17図	3 8	晚期	A 深鉢 B 制部 C 浮織文	a褐色 b砂粒 c良好	
第17図	3 9	晚期	A 深鉢 B 制部 C 浮織文	a黒褐色 b砂粒 c良好	
第17図	4 0	晚期	A 深鉢 B 制部 C 相密条痕文	aにぶい褐色 b砂粒 c良好	
第17図	4 1	晚期	A 深鉢 B 制部 C 相密条痕文	aにぶい褐色 b砂粒 c良好	
第17図	4 2	晚期	A 深鉢 B 制部 C 相密条痕文	aにぶい褐色 b砂粒 c良好	
第17図	4 3	晚期	A 深鉢 B 制部 C 相密条痕文	a褐色 b砂粒 c良好	
第17図	4 4	晚期	A 深鉢 B 制部 C 相密条痕文	a褐色 b砂粒, 茶色絆子 c良好	
第17図	4 5	晚期	A 深鉢 B 制部 C 相密条痕文	a黒褐色 b砂粒 c良好	
第17図	4 6	晚期	A 深鉢 B 制部 C 相密条痕文	aにぶい褐色 b砂粒 c良好	
第17図	4 7	晚期	A 深鉢 B 制部 C 相密条痕文	aにぶい褐色 b砂粒 c良好	
第17図	4 8	晚期	A 深鉢 B 制部 C 薄い条痕文	a黒褐色 b小石 c良好	
第17図	4 9	晚期	A 深鉢 B 制部 C 薄い条痕文	a褐色 b砂粒 c良好	
第17図	5 0	晚期	A 深鉢 B 制部 C 薄い条痕文	a灰褐色 b小石 c良好	
第17図	5 1	晚期	A 深鉢 B 制部 C 条痕文	aにぶい褐色 b小石 c良好	
第17図	5 2	晚期	A 深鉢 B 制部 C 条痕文	a褐色 b小石 c良好	
第17図	5 3	晚期	A 深鉢 B 制部 C 内面に沈線	a褐色 b砂粒 c良好	
第17図	5 4	晚期	A 深鉢 B 底部 C 底部に壓痕	aにぶい褐色 b砂粒 c良好	
第17図	5 5	晚期	A 深鉢 B 底部 C 総密条痕文	a褐色 b砂粒 c良好	
第17図	5 6	晚期	A 深鉢 B 底部	a褐色 b砂粒 c良好	
第17図	5 7	晚期	A 深鉢 B 底部	a褐色 b砂粒 c良好	

土器觀察表(弥生後期～)

図版	N.O.	時代	A 器種 B 器形 C 文様 D 製作技法の特徴	a 色調 b 脂土 c 陶成	部位
第18図	5 8	弥生後期	A 瓢 C 斜走文	a赤褐色 b砂粒 c良好	頸部～胴部
第18図	5 9	弥生後期	A 瓢 C 斜走文、縦状文	a赤褐色 c良好	頸部～胴部
第18図	6 0	弥生後期	A 瓢 C 斜走文	a赤褐色 b砂粒 c良好	胴部
第18図	6 1	弥生後期	A 瓢 C 波状文、縦状文	a黒褐色 b砂粒 c良好	頸部
第18図	6 2	弥生後期	A 高杯 C 赤影	a明歩褐色 b砂粒 c良好	接合部
第18図	6 3	弥生後期	A 高杯 C 赤影	a明歩褐色 b砂粒 c良好	接合部
第18図	6 4	弥生後期	A 高杯 C 赤影	a明歩褐色 b砂粒 c良好	接合部
第18図	6 5	古墳前期	A 瓢	aにぶい褐色 b砂粒 c良好	口縁
第18図	6 6	弥生後期	A 瓢 C 赤影	aにぶい褐色 c良好	底部
第18図	6 7	古墳前期	A 瓢	a褐色 b砂粒 c良好	底部
第18図	6 8	古墳前期	A 瓢	a褐色 b砂粒 c良好	底部
第18図	6 9	古墳前期	A 丸底盤	a褐色 b砂粒 c良好	底部
第18図	7 0	古墳後期	A はそう(須恵)	a青黒色 c良好	口縁

< S D O 1 >  
土器観察表（弥生後期～）

図版	N.O.	時代	A器種 B器形 C文様 D製作技法の特徴	a色調 b胎土 c焼成	部位
第18圖	71	古墳後期	A高环(土師) D内面墨色處理、72と同一個体	a褐色 b砂粒 c良好	环部
第18圖	72	古墳後期	A高环(土師) D71と同一個体	a褐色 b砂粒 c良好	环部
第18圖	73	古墳後期	A高环(土師) D内面墨色處理	a褐色 c良好	环部
第18圖	74	古墳後期	A高环(土師)	a明赤褐色 b茶色粒子 c良好	环部
第18圖	75	古墳前期	A高环(土師)	a明赤褐色 b砂粒、茶色粒子 c良好	环部

< S D O 2 >  
土器観察表（縄文）

図版	N.O.	時期	A器種 B器形 C調整施文技法	a色調 b胎土 c焼成	備考
第19圖	1	早期	A深鉢B口縁部C沈線文、口唇部に刻み目	a暗赤褐色 b金鑑母 c良好	含織維
第19圖	2	早前期	A深鉢B縫部C渦文	a褐色 b砂粒 c良好	含織維
第19圖	3	晚期	A深鉢B口縁部C浮織文	aにぶい褐色 b砂粒 c良好	
第19圖	4	晚期	A深鉢B口縁部C浮織文、突起をもつ	aにぶい褐色 b砂粒 c良好	
第19圖	5	晚期	A深鉢B口縁部C突起をもつ	a褐色 b砂粒 c良好	

土器観察表（弥生後期～）

図版	N.O.	時代	A器種 B器形 C文様 D製作技法の特徴	a色調 b胎土 c焼成	部位
第19圖	6	弥生後期	A壺C波状文	a褐色 b砂粒、白色粒子 c良好	肩部
第20圖	45	平安	A壺(土師) D北信型の壺	a褐色 b砂粒 c良好	

< S K O 1 >  
土器観察表（縄文）

図版	N.O.	時期	A器種 B器形 C調整施文技法	a色調 b胎土 c焼成	備考
第19圖	7	晚期	A深鉢B口縁部C浮織文、突起をもつ	aにぶい褐色 b砂粒、白色粒子 c良好	

< S K O 5 >  
土器観察表（縄文）

図版	N.O.	時期	A器種 B器形 C調整施文技法	a色調 b胎土 c焼成	備考
第19圖	8	早期	A深鉢B口縁部C沈線文、刺突、口唇部に刻み目	a褐色 b砂粒 c良好	含織維
第19圖	9	早前期	A深鉢B縫部C渦文	a赤褐色 b砂粒 c良好	口縫～縫部

< 遺構外 >  
土器観察表（縄文）

図版	N.O.	時期	A器種 B器形 C調整施文技法	a色調 b胎土 c焼成	備考
第19圖	10	早期	A深鉢B縫部C格条体压底	a明赤褐色 b白色、茶色粒子 c良好	含織維
第19圖	11	早期	A深鉢B縫部C格条体压底	a明赤褐色 b白色粒子 c良好	含織維
第19圖	12	早期	A深鉢B縫部C格条体压底(内面)、刺突	a褐色 b砂粒 c良好	
第19圖	13	早期	A深鉢B底部C渦文	a赤褐色 b砂粒 c良好	含織維
第19圖	14	早期	A深鉢B縫部C渦文	a暗赤褐色 b砂粒、金鑑母 c良好	
第19圖	15	前期	A深鉢B縫部C半截竹管	a黒褐色 b小石 c良好	含織維
第19圖	16	晚期	A深鉢B口縫部C浮織文	a褐色 b砂粒 c良好	
第19圖	17	晚期	A深鉢B口縫部C浮織文	aにぶい褐色 b砂粒 c良好	
第19圖	18	晚期	A深鉢B口縫部C浮織文、突起を押庄	a褐色 b砂粒 c良好	
第19圖	19	晚期	A深鉢B口縫部C浮織文	a明赤褐色 b砂粒 c良好	
第19圖	20	晚期	A深鉢B口縫部C浮織文、突起を押庄	a灰褐色 b砂粒 c良好	

<遺構外>  
土器観察表(調文)

図版	N.O.	時期	A 器種 B 部位 C 調整施文技法	a 色調 b 砂粒 c 構成	備考
第 19 図	2 1	晩期	A 深鉢 B 口縁部 C 浮雕文、突起を押圧	aにぶい褐色 b砂粒 c良好	
第 19 図	2 2	晩期	A 深鉢 B 制部 C 浮雕文	aにぶい褐色 b砂粒 c良好	
第 19 図	2 3	晩期	A 深鉢 B 制部 C 浮雕文	a黒褐色 b砂粒 c良好	
第 19 図	2 4	晩期	A 深鉢 B 口縁部 C 突起を押圧	aにぶい褐色 b砂粒 c良好	
第 19 図	2 5	晩期	A 深鉢 B 制部 C 浮雕文	a褐色 b砂粒 c良好	
第 19 図	2 6	晩期	A 深鉢 B 制部 C 浮雕文	a褐色 b砂粒 c良好	
第 19 図	2 7	晩期	A 深鉢 B 口縁部 C 突起文	a褐色 b砂粒、茶色粒子 c良好	
第 19 図	2 8	晩期	A 深鉢 B 口縁部 C 無文	a褐色 b砂粒、茶色粒子 c良好	
第 19 図	2 9	晩期	A 深鉢 B 制部 C 浮雕文	aにぶい褐色 b砂粒 c良好	
第 20 図	3 0	晩期	A 深鉢 B 制部 C 細密条痕文	a赤褐色 b砂粒、茶色粒子 c良好	
第 20 図	3 1	晩期	A 深鉢 B 制部 C 細密条痕文	aにぶい褐色 b砂粒 c良好	
第 20 図	3 2	晩期	A 深鉢 B 制部 C 細密条痕文	a褐色 b砂粒 c良好	
第 20 図	3 3	晩期	A 深鉢 B 制部 C 細密条痕文	aにぶい褐色 b砂粒 c良好	
第 20 図	3 4	晩期	A 深鉢 B 制部 C 細密条痕文	a褐色 b砂粒 c良好	
第 20 図	3 5	晩期	A 深鉢 B 底部 C 底部に網代底	a褐色 b砂粒 c良好	
第 20 図	3 6	晩期	A 深鉢 B 底部 C 底部に網代底	a褐色 b砂粒 c良好	

土器観察表(弥生後期～)

図版	N.O.	時代	A 器種 B 器形 C 文様 D 製作技法の特徴	a 色調 b 砂粒 c 構成	部位
第 20 図	3 7	弥生後期	A 壺 B 折返し口縁 C 波状文	a赤褐色 b砂粒 c良好	口縁
第 20 図	3 8	古墳前期	A 壺 B 折返し口縁 C 無文	a褐色 b砂粒 c良好	口縁
第 20 図	3 9	弥生後期	A 壺 B 折返し、受け口状口縁 C 波状文、斜走文	a褐色 b砂粒 c良好	口縁
第 20 図	4 0	弥生後期	A 壺 C 波状文	a暗褐色 b砂粒 c良好	口縁
第 20 図	4 1	弥生後期	A 壺 C 斜走文	a明赤褐色 b砂粒 c良好	口縁
第 20 図	4 2	弥生後期	A 高坪 C 彩影	a褐色 b砂粒 c良好	环部
第 20 図	4 3	平安	A ふた(須恵)	a灰色 b白色粒子、小石 c良好	
第 20 図	4 4	平安	A ふた(須恵)	a灰色 b白色粒子、小石 c良好	

石器観察表

N O	出土遺構	名 称	時 期	石 材	特 訴
1	S B O 1	石鏃	縄文	黒曜石	圓基
2	S B O 1	石鏃	縄文	頁岩	圓基
3	S B O 1	石鏃	縄文	黒曜石	圓基
4	S B O 2	石鏃	縄文	黒曜石	圓基
5	S B O 2	石鏃	縄文	黒曜石	圓基
6	S B O 2	石鏃	縄文	黒曜石	圓基
7	S B O 2	石鏃	縄文	黒曜石	圓基
8	S B O 2	石鏃	縄文	黒曜石	圓基
9	S B O 2	石鏃	縄文	黒曜石	圓基
10	S B O 2	石鏃	縄文	黒曜石	圓基
11	S B O 2	石鏃	縄文	黒曜石	圓基
12	S B O 2	石鏃	縄文	黒曜石	圓基
13	S B O 2	石鏃	縄文	黒曜石	圓基
14	S B O 2	石鏃	縄文	黒曜石	圓基
15	S B O 2	石鏃	縄文	黒曜石	圓基
16	S B O 2	石鏃	縄文	黒曜石	圓基
17	S B O 2	石鏃	縄文	黒曜石	圓基
18	S B O 2	石鏃	縄文	黒曜石	圓基
19	S B O 2	石鏃	縄文	黒曜石	圓基
20	S B O 2	石鏃	縄文	黒曜石	圓基
21	S B O 2	石鏃	縄文	黒曜石	圓基
22	S B O 2	石鏃	縄文	黒曜石	圓基
23	S D O 1	石鏃	縄文	黒曜石	圓基
24	S D O 1	石鏃	縄文	黒曜石	圓基
25	S D O 1	石鏃	縄文	黒曜石	圓基
26	不 明	石鏃	縄文	黒曜石	圓基
27	不 明	石鏃	縄文	黒曜石	圓基
28	不 明	石鏃	縄文	黒曜石	圓基
29	不 明	石鏃	縄文	黒曜石	圓基 (ブーメラン形)
30	不 明	石鏃	縄文	チャート	圓基
31	不 明	石鏃	縄文	黒曜石	圓基
32	不 明	石鏃	縄文	黒曜石	圓基
33	不 明	石鏃	縄文	黒曜石	圓基
34	不 明	石鏃	縄文	黒曜石	圓基
35	不 明	石鏃	縄文	黒曜石	圓基
36	不 明	石鏃	縄文	黒曜石	圓基
37	不 明	石鏃	縄文	黒曜石	圓基
38	不 明	石鏃	縄文	黒曜石	圓基
39	不 明	石鏃	縄文	黒曜石	圓基
40	不 明	石鏃	縄文	黒曜石	圓基
41	不 明	石鏃	縄文	黒曜石	圓基
42	不 明	石鏃	縄文	黒曜石	圓基
43	不 明	石鏃	縄文	黒曜石	圓基
44	不 明	石鏃	縄文	黒曜石	圓基
45	S B O 1	石鏃	縄文	黒曜石	平基
46	S B O 2	石鏃	縄文	黒曜石	平基
47	S B O 2	石鏃	縄文	黒曜石	平基
48	S B O 2	石鏃	縄文	黒曜石	平基
49	S B O 2	石鏃	縄文	チャート	平基
50	S D O 1	石鏃	縄文	黒曜石	平基
51	S D O 1	石鏃	縄文	黒曜石	平基
52	S D O 1	石鏃	縄文	黒曜石	平基
53	S D O 1	石鏃	縄文	黒曜石	平基

5 4	S D 0 1	石巖	獨立文	黒曜石	平基
5 5	S D 0 1	石巖	獨立文	黒曜石	平基
5 6	S D 0 1	石巖	獨立文	黒曜石	平基
5 7	S D 0 2	石巖	獨立文	黒曜石	平基
5 8	S D 0 2	石巖	獨立文	黒曜石	平基
5 9	不 明	石巖	獨立文	黒曜石	平基
6 0	不 明	石巖	獨立文	黒曜石	平基
6 1	S B 0 1	石巖	獨立文	チャート	有基・固基
6 2	S B 0 1	石巖	獨立文	黒曜石	有基・固基
6 3	S D 0 1	石巖	獨立文	黒曜石	有基・固基
6 4	S D 0 1	石巖	獨立文	黒曜石	有基・固基
6 5	不 明	石巖	獨立文	黒曜石	有基・固基
6 6	不 明	石巖	獨立文	チャート	有基・固基
6 7	不 明	石巖	獨立文	黒曜石	有基・固基
6 8	S B 0 1	スクレイバー	獨立文	黒曜石	
6 9	S B 0 1	石巖	獨立文	黒曜石	
7 0	S B 0 2	石巖	獨立文	黒曜石	
7 1	S B 0 2	石巖	獨立文	黒曜石	
7 2	S D 0 2	石巖	獨立文	黒曜石	
7 3	S K 0 5	石巖	獨立文	黒曜石	
7 4	S K 0 5	石巖	獨立文	黒曜石	
7 5	不 明	石巖	獨立文	黒曜石	
7 6	S B 0 2	石匙	獨立文	黒曜石	
7 7	S B 0 2	石匙	獨立文	黒曜石	
7 8	不 明	石匙	獨立文	黒曜石	
7 9	S D 0 1	スクレイバー	獨立文	チャート	
8 0	S B 0 2	スクレイバー	獨立文	黒曜石	
8 1	S B 0 2	石錐	獨立文	黒曜石	
8 2	S B 0 2	スクレイバー	獨立文	黒曜石	
8 3	S B 0 2	スクレイバー	獨立文	黒曜石	
8 4	S D 0 1	スクレイバー	獨立文	黒曜石	
8 5	S D 0 1	スクレイバー	獨立文	黒曜石	
8 6	S D 0 1	スクレイバー	獨立文	黒曜石	
8 7	S B 0 2	使用痕のある剥片	獨立文	黒曜石	
8 8	S B 0 2	使用痕のある剥片	獨立文	黒曜石	
8 9	S D 0 1	スクレイバー	獨立文	頁岩	
9 0	S B 0 2	スクレイバー	獨立文？	頁岩	
9 1	S B 0 1	スクレイバー	獨立文	頁岩	
9 2	S D 0 1	打製石斧	獨立文	頁岩	
9 3	S D 0 1	打製石斧	獨立文	頁岩	
9 4	S B 0 2	石錐	弥生	頁岩	
9 5	S B 0 2	磨製石斧	獨立文？	硬質砂岩	
9 6	S B 0 3	打製石斧	獨立文	頁岩	
9 7	S D 0 2	石錐	弥生	結晶頁岩	
9 8	S B 0 2	丸石		安山岩	
9 9	S B 0 2	丸石		チャート	
1 0 0	S B 0 2	砾石		硬質砂岩	
1 0 1	不 明	砾石		頁岩	
1 0 2	S B 0 2	砾石	弥生？	硬質砂岩	
1 0 3	S B 0 2	砾石	弥生？	硬質砂岩	
1 0 4	S B 0 2	石棒	獨立文	流紋岩	
1 0 5	S B 0 2	砾石		安山岩	周囲に打擊痕をもつ
1 0 6	S B 0 1	砾石	獨立文？	安山岩	周囲に打擊痕をもつ
1 0 7	S B 0 2	砾石	獨立文？	結晶片岩	韌をもつ
1 0 8	S B 0 2	砾石	獨立文？	安山岩	

### 第三節　まとめ

大日ノ木遺跡は、上信越自動車道調査地区については（財）長野県埋蔵文化財センターにより6,800m<sup>2</sup>にわたって発掘調査が行われている。今回の調査は同一遺跡で上信越自動車道調査地区と接しているため、相互に比較しながらまとめるべきと考えたい。

#### 〈縄文時代〉

早前期・中期と晩期の土器・石器が出土しているが、明確な遺構は確認できなかった。また、土器は早期中葉の沈線文系土器・早期後葉の絡条体圧痕文系土器が目立ち、前期の土器も確認できた。また、晩期の土器は多く出土している。石器は打製石器が多数出土している。この様な遺物の出土状況は、上信越自動車道調査地区においても同様であった。

これら縄文時代の土器は破片資料がほとんどであるため、詳細な分析をすることは難しい。とりあえず、早期中葉の沈線文系の土器と晩期の氷式土器について口縁部を中心に概観しておくこととする。

早期中葉の土器は、田戸上層式併行期と思われる沈線文系の土器が確認できる。しかし、今回の調査では明確な貝殻文・鰐齒状構成の模様は確認できなかった。他地域の資料や当該遺跡のものは破片資料がほとんどであるが、千曲川水系では新水B遺跡（望月町）で類似する土器が出土している。長野県においては田戸上層式土器から子母口式土器の時期の土器は在地化しており、地域によりローカル色を強めている可能性があるが、斜走沈線と刺突文により構成される模様はローカル地域の特徴の一つと考えられる。

晩期最終末期の土器は、氷遺跡（小諸市）の資料を標準とする氷式土器である。当該遺跡の位置する烏帽子岳南西麓には、破片資料ではあるが氷式土器を中心に晩期最終末から弥生前期の土器が出土する遺跡（第25図1、2木ノ上遺跡・3八千原遺跡・4塚穴遺跡・5神林遺跡・7～10境田遺跡・11.12中原遺跡SK280・13～20中原遺跡）が集中している。大日ノ木遺跡では、その出土量が多いことから、深鉢・浅鉢など様々な器種が確認することができた。深鉢に注目してみると口縁部に4単位程になると思われる山形の突起が添付されているものが多い。この突起には中央を押圧された抉りが施されている。これは、氷遺跡等の他の遺跡の事例をみるとかぎり類例はそれほど多くないが、大日ノ木遺跡をはじめ上小地方の遺跡（神林遺跡・中原遺跡・上田原遺跡群）では一般的に見られる。これは、氷I式の中でも新しい段階に属するものであろうか。また、精製の浮線文をもつ浅鉢は口唇部と脣部文様帯が接しているもの（第9図15、第16図14など）もみられ、氷I式のなかでも古い段階のものと思われる。総じて、大日ノ木遺跡の氷式土器は氷I式の範疇に入るものがほとんどであると思われる。

#### 〈弥生時代後期から古墳時代〉

大日ノ木遺跡では、弥生時代後期末から古墳時代前期にかけての竪穴住居が確認されており、当該調査地区で検出されたものについても上信越自動車道調査地区に含まれる集落の一部であることが推定される。集落は押出扇状地の扇頂部にあたる場所に位置しているが、そのなかでも土砂が押し出しにより堆積して微高地となった部分に形成されている。

土器は箱清水式系の土器を中心にしながら北陸系のものも出土しているが、ほとんどは破片であった。その為、完形品は目立った存在となった。すなわち、SB02では床面に置かれた状態で口縁部をきれいに取り去った壺（第14図117）と片口鉢（第15図126）が出土している。このことは、竪穴住居に大石が遺棄されていることと住居の廃棄後に掘立柱建物が建てられていたことから考えると、竪穴住居の廃絶に関係する行為として注目される。

箱清水式土器の壺は單純口縁で器面に櫛描波状文を施し、頸部に簾状文を施すものが一般的なものであ

る。上小地方における壺もほとんどの場合はこの標準的な壺である。当該調査でも同様の土器片が多く出土しているが、そうでないものも確認されている。標準的な壺でないものとして①T字文を施した壺②斜走文を施した壺③折り返し口縁をもつ壺が出土しているが、これらの壺は上小地方では比較的よく見かけるものである。しかし、これらの土器の出土する遺跡の分布をみてみると、片寄りがあることがわかる。すなわち、①T字文を施した壺（第27図1、2和手遺跡SB23、3下町田遺跡SK01、4下町田遺跡SB03）は箱清水式土器の文化圏の中でみると上小地方に集中して出土していることが認められる。②斜走文を施した壺（第27図9たたら堂遺跡SB04、10大日ノ木遺跡SB23、11下町田遺跡SB18、12下町田遺跡SB19、13、14国府調査III A地点）は、上小地方では千曲川右岸に集中している。塩田・川西地方ではみることができない。このことは、佐久地方の千曲川右岸における土器様相と関連性をもって繋がっていることを表していると思われる。③折り返し口縁をもつ壺（第27図5大日ノ木遺跡SB23、6石原田遺跡SB23、7高呂添遺跡SK24、8林之郷遺跡SB27）もほとんどが上小地方では千曲川右岸に集中している。当該遺跡においても3種類の壺が確認されており、この様な状況を補強する資料となると思われる。

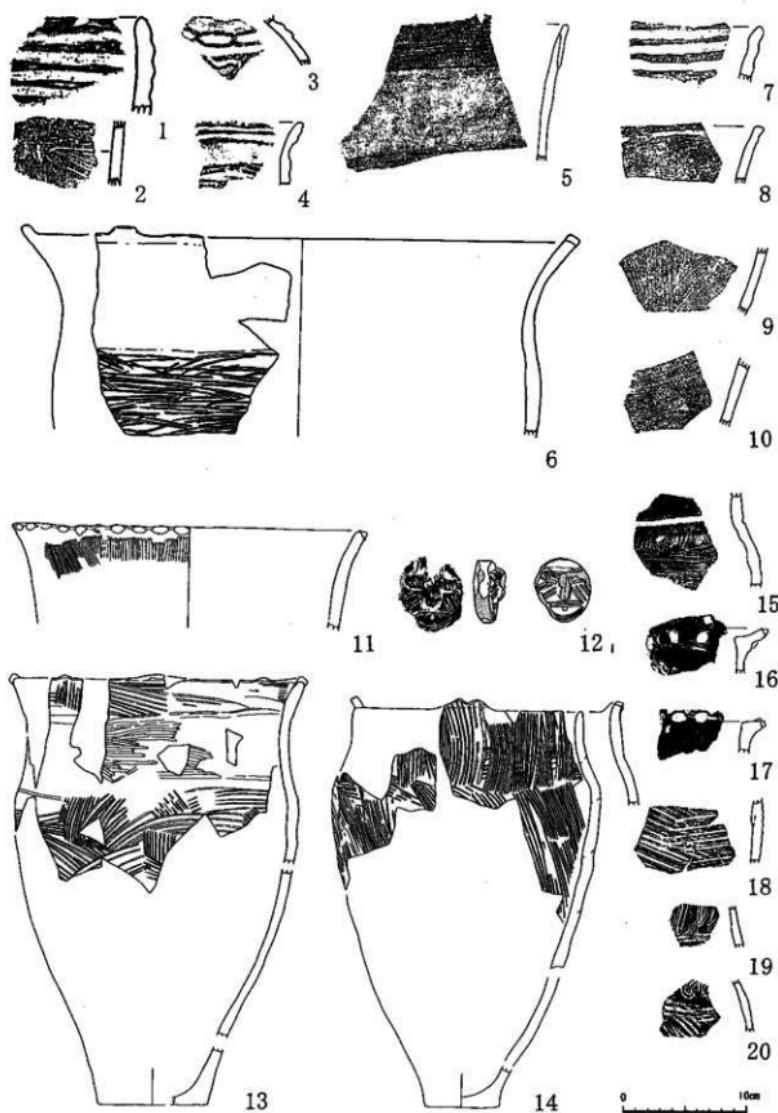
この状況は、上小地方における弥生時代後期から古墳時代初頭における歴史的特徴を表していると考えられる。②斜走文を施した壺は斜走文が縱向きの羽状になる場合が多く、弥生時代中期栗林式土器以来の伝統的模様構成を残していると考えられる。また、器面に櫛描によるX字状の模様を施すもの（第20図39・41、第27図12）も同様であると考えられる。一方、口縁部を中心に縱の櫛描直線文を施すもの（第27図6・9・10・13・14）もみられる。これは、上田市神川の赤塚遺跡出土の吉田式土器併行と考えられている土器などにもみられる施文方法である。櫛描波状文を施す前段階の器面調整から派生した施文方法と思われる。③折り返し口縁をもつ壺は折り返し部分に櫛描波状文或いは簾状文を施すものと施さないものがある。折り返し口縁部は、受け口状口縁を模した手法と考えられる。このことは、外側からの見た目は類似していることは言うまでもないが、受け口状口縁部のみに櫛描波状文を施すもの（第27図13）がみられたり、折返し口縁でかつ受け口状口縁であるもの（第20図39）が散見されることから推定される。①壺の頸部にT字文を施すことは群馬県側の樽式土器に多くみられる手法である。こうした壺は、樽式文化圏では吾妻地域などの長野県に近い地域に多くみられることから、鳥居峠を通した交流の影響を考えることができる。これらの壺は、通常の箱清水式の壺と供存している。

こうしたことから、上小地方は千曲川右岸を中心に伝統的な技法を色濃く残していると考えられ、強い保守性が感じられる。また、群馬県側との交流の可能性も示唆される。

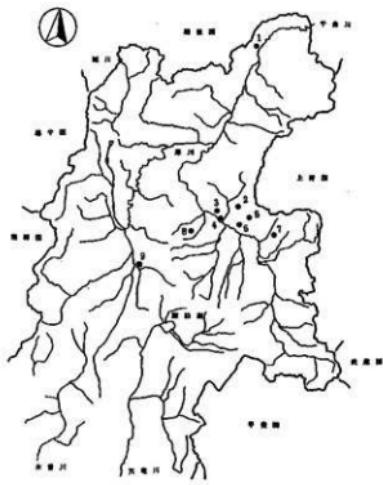
石器は、石鏡（第22図93・94、第23図96・97）・横刃型石器（第22図89・91）がみられる。しかし、石包丁は確認できない。上田市から東部町にかけての鳥帽子岳南西麓沿いの遺跡では今のところ石包丁は確認できていない。石包丁は水田稲作における穂摘具と考えられており、上小地方の弥生時代後期の遺跡では出土量の多い石器であるが、これがみられないということは、生業形態が平野部と異なる可能性があると考えることもできる。

#### ＜古墳時代後期から平安時代＞

上信越自動車道調査地区では6世紀後葉から9世紀中葉に継続的に小集落が営まれていたことが確認されている。しかし、当該調査地区では遺物は少量が確認できるものの、遺構は確認できなかった。ただし、当該調査地区的南端からカマドをもった堅穴住居の痕跡が確認されることから、集落は南西の扇中央部へと広がっていることが推測される。



第25図 鳥帽子岳南西麓における縄文晩期～弥生前期の土器



① T字文を施した壇の分布（長野県）



② 斜走文を施した壇の分布（上小）



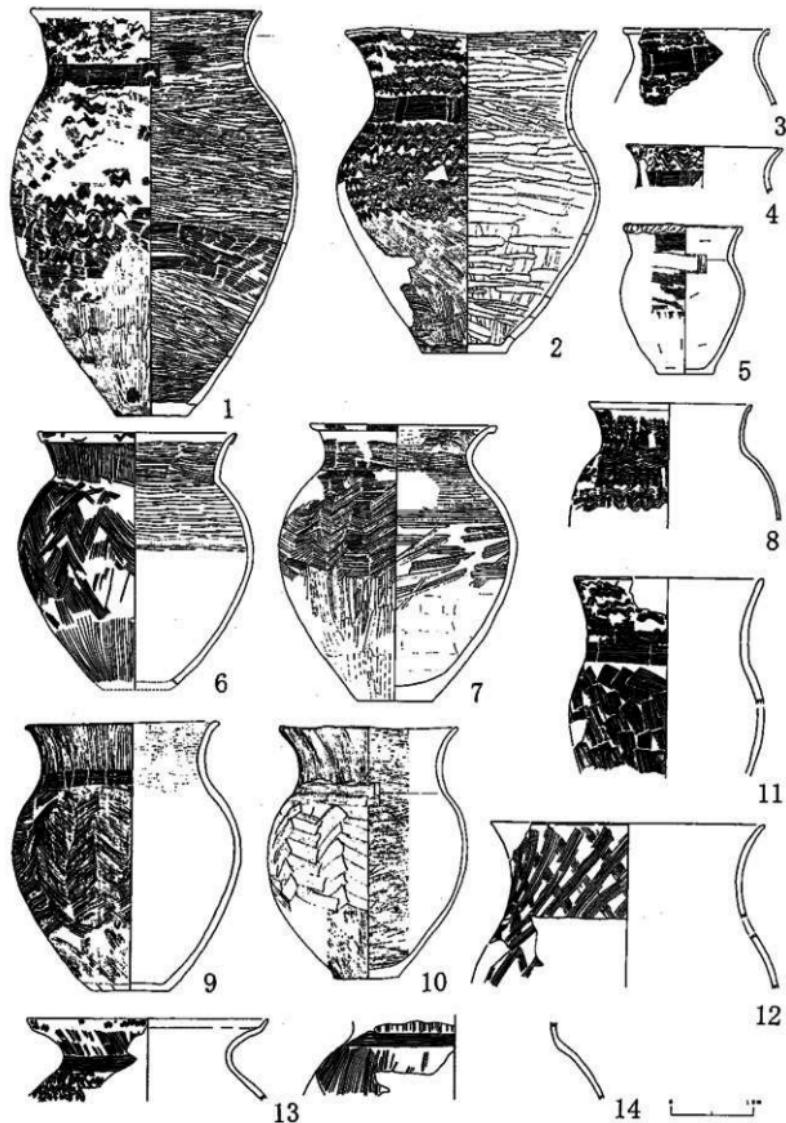
③ 折返し口縁をもつ壇の分布（上小）

	壇 緒 名	所在地
1	飯山原石高寺学校後地内遺跡	飯山市
2	大日ノ木遺跡	上田市
3	下町遺跡	上田市
4	国分寺周辺遺跡群	上田市
5	麻績遺跡	東御町
6	石原遺跡	東御町
7	望田遺跡	御代田町
8	新平遺跡	上田市
9	上木戸遺跡	麻糸市

	壇 緒 名	所在地
1	下町遺跡	上田市
2	飯所御座裏 - A地点	上田市
3	大日ノ木遺跡	上田市
4	たたら遺跡群	東御町
5	石原遺跡	東御町
6	美五町遺跡	東御町
7	高邑遺跡	東御町
8	城の前遺跡	東御町

	壇 緒 名	所在地
1	吉原遺跡	上田市
2	下町遺跡	上田市
3	林之郷遺跡	上田市
4	大日ノ木遺跡	上田市
5	たたら遺跡群	東御町
6	石原遺跡	東御町
7	飯所寺遺跡	東御町
8	高邑遺跡	東御町
9	城の前遺跡	東御町
10	望田八遺跡	上田市

第26図 各種壇の分布状況



第27図 瓦のいろいろ

## 報告書抄録

ふりがな	おひのきいせき						
書名	大日ノ木遺跡						
シリーズ名	上田市文化財調査報告書						
シリーズ番号	第89集						
編集機関	上田市教育委員会						
所在地	〒386-0025 長野県上田市天神二丁目4番74号 TEL 0268(23)5102						
発行年月日	2002年3月25日						
所収遺跡名	所在地	コード		北緯 東経 ° °' "	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号				
大日ノ木 遺跡	上田市 大字芳田 字山田	20203	17	36° 24' 00" 138° 18' 12"	2001年 10月22日 ～ 12月 3日	758 m <sup>2</sup>	道路建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項	
大日ノ木 遺跡	集落	縄文時代早期 ・晩期、弥生 時代後期、平安時代	竪穴住居3軒 掘立柱建物1棟 溝・土坑他	縄文土器・弥生土器 ・土師器・須恵器・ 石器他	縄文時代早期及び晩 期の土器の出土		



上信越自動車道調査地点（平成6年）



大日ノ木遺跡調査地区



SB01



SB02



SB02 集石



SB02 地床炉



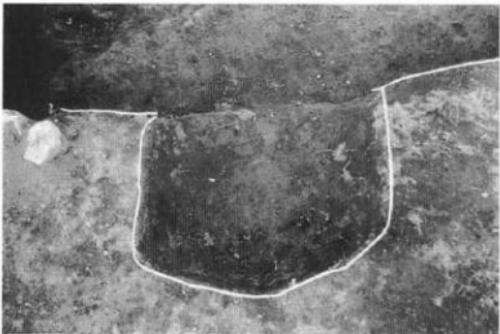
SD01



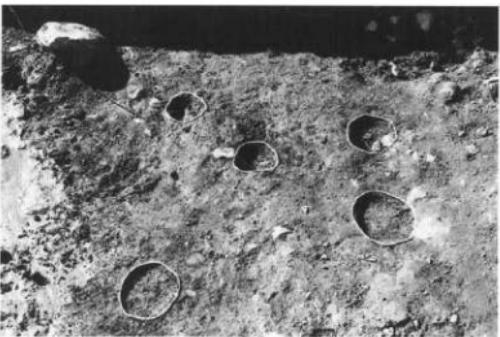
SD02



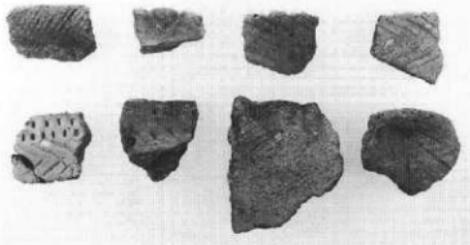
SK01



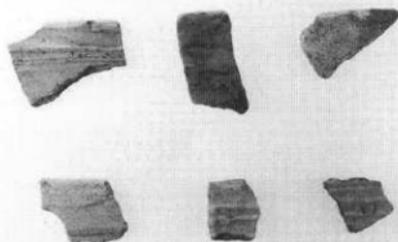
SK05



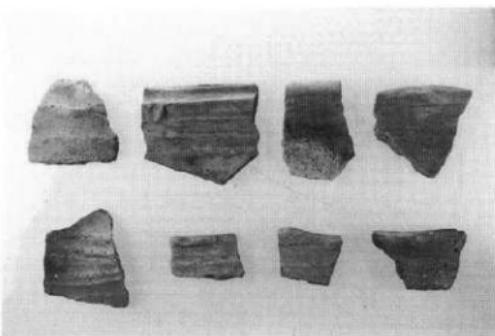
Pit群



早期の土器 4・7 (SB01)、1・2・3・6・7 (SB02)、1 (SD01)



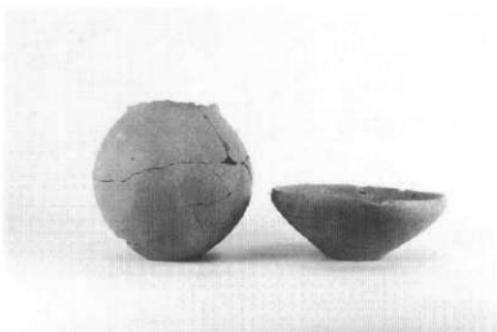
晩期の土器 11・12・21・15・14・13 (SB01)



晩期の土器 33・34・36・44・40・46・48・42 (SB02)



古墳時代初頭の土器 118 (SB02)



古墳時代初頭の土器 117・126 (SB02)



発掘調査団

## おわりに

本書は、発掘調査終了からわずか3ヶ月という短い間に刊行することができました。その陰には、作業員をはじめ調査に携わった多くの皆様の御理解・御協力・御支援に支えられていたことは言うまでもありません。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

さて、本書は発掘調査の成果を記録し、公開する手段の1つです。分かり易く、調査者でないと分からぬ部分を記録することによって歴史研究の資料とする目的としています。しかし、担当者の経験不足・知識不足から学術書として十分なものとなったかは、はなはだ疑問です。本書の内容については様々な御批判もあることとは思いますが、それらを謙虚に受け止め、今後の糧にしていきたいと思います。

---

上田市文化財報告書 第89集

大日ノ木遺跡

ふるさと街道整備事業（殿城地区）に伴う

発掘調査報告書

発 行 平成14年3月25日

発行者 上 田 市

上田市教育委員会

印 刷 株アオヤギ印刷

---

